わが子のあゆみ

岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌
3
2014.3 NO.432
春風号
第65巻5号

全校生徒31人のへき地小規模校だからこそ、大きな舞台に立つことを通して「自信」と「誇り」を持てるようにしたいと、「NHK学校音楽コンクール」「CBCこども音楽コンクール」に毎年参加しています。合唱は「佐見中の誇り」であるとともに、「保護者や地域の誇り」となっています。

運動会は小中合同で実施

白川町立佐見中学校（しらかわちょうりつさみちゅうがっこう）

●【学校の教育目標】

豊かな心で深く考えたくましく

●【指導の重点】

学級づくりを基盤とした生徒に力をつける
教科指導の充実をめざす

がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

白川町立佐見中学校

佐見歌舞伎
2年に1度の大舞台

交通安全教室
地域の方々が温かく見守ってくれます。

親子クッキング
地元産の食材にこだわって作りました。

読書集会
お薦め本の紹介をしました。

保小中合同保護者会
図書館で読書についての講話を聞きました。

クリーン作戦
地区の神社や公民館を掃除しました。

わが子のあゆみ
2014.3 No.432 春風号
第65巻5号

発行 ： 岐阜県PTA連合会
〒500-8824　岐阜市北八ツ寺町7　岐阜県校長会館内
編集 ： 岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
頒価 ： 200円　年間1,000円
この刊行物は一部岐阜県からの助成金を受けています。

バックナンバーのお求めは
058（262）3257
県PTA連合会事務局へ

【たるいちょうりつひがししょうがっこう】

垂井町立東小学校

●住所　〒503−2112　不破郡垂井町綾戸910番地の1
●TEL　(0584)23−2780
●FAX　(0584)24−1069
●メール　E-mail:hes30232@he.mirai.ne.jp
●児童数　387名(H26.1.8現在)

30周年記念事業「航空写真」

学校の教育目標

「光の子　よく考え　手を取り合って　たくましく」

光の子（めざす姿）

ひ・・・人を思いやり、明るくあいさつする子
か・・・体をきたえ、元気を遊ぶ子
り・・・理想に燃え、ふるさとを愛する子
の・・・ノーチャイムで時間いっぱい遊ぶ子
こ・・・根気よく掃除に取り組む子

美濃路の松並木の「こも巻き」
垂井青年クラブの皆さんによる指導で、毎年美しく巻くことができます。

学校のたからもの❶ 地域とともに歩む東小学校

沿革・地域の自然や風土

昭和五十八年、人口増加にともない垂井・表佐・府中の三地区からの分離統合により設立され、本年度創立三十周年を迎えました。現在も新しい住宅が建設されており、児童数は徐々に増加傾向にあります。

近くには古墳や旧美濃路松並木等の歴史遺産がある一方、大型ショッピングセンター等の商業施設の増加もあり、新旧両面のよさがある地域です。

公民館主催の「光の子チャレンジ教室」（土曜日に開催）や「旧美濃路松並木保存活動」に地域の協力があります。児童は「地域とともに歩む東小」を誇りに思い、積極的に地域活動に参加しています。

学校の教育目標

「光の子　よく考え　手を取り合って　たくましく」のもと、職員も児童も、児童のよさに着目した「光の子みつけ」を行い、一人一人の自尊感情を高める取組を継続しています。また、「さん」づけ呼称や挨拶運動、特別支援学級や子ども園等との交流活動により、児童に思いやりの心や自己肯定感が育っています。

光の子チャレンジ教室

学校や家庭では体験できない「子ども教室」を開催し、異年齢・異世代間のふれあいや、伝統文化の継承等、幅広い体験を通じて「心豊かでたくましい子どもたち」を育むことを目指し、青少年健全育成の一環として始まりました。

グラウンドゴルフ、ドッジビー、俳句つくり、生け花、コンニャクつくり、里山観察、親子クッキング等、年間で二十回ほど行われます。毎回、数十名の参加があり、東小職員も交代で参加しています。

実行委員には、公民館の方だけではなく、校長、PTA役員、子ども会育成委員、学識経験者の方々が加わり、協力して進められています。

光の子チャレンジ教室で「ドッジビー」
公民館長さんも一緒にプレーしています。

子ども園との交流

幼保一元化の流れの中、昨年度まで小学校の隣にあった東幼稚園が、北保育園と合併し「東子ども園」となりました。そのため、場所が二キロほど北へ移転してしまったのですが、小学生と園児のつながりを大切にしたいという思いから、どの学年も年間二回の交流を行い、そのうち一回は小学校で、一回は子ども園で行うことを基本としています。小学生が主体となり、集団あそびを進行したり、手作りの「わなげ」や「手芸」「ボーリング」などの遊び場をつくったりします。

子ども園との交流
お兄さんお姉さんが、いろいろなあそびを工夫して園児を楽しませています。

美濃路の松並木の「こも巻き」

東小学校の南には美濃路、北には中山道が通っています。西側には綾戸古墳があり、歴史遺産に囲まれた学校です。

そこで、江戸時代からの遺産である「美濃路の松並木」を病虫害から守るため、毎年「こも巻き」を行っています。垂井青年クラブの方々が指導してくださり、こもの巻き方や縄の結び方を事前に練習します。

少し肌寒い季節ですが、練習の成果もあり、六年生の子どもたちはてきぱきと作業を行うことができ、午前中で作業を完了しました。テレビや新聞などで紹介されることもあり、子どもたちの誇りとなる奉仕作業です。

「子ども見守り隊」「学校支援ボランティア」

東小学校の児童は、多くのボランティアの方々に見守られ、安心安全な生活ができています。下校時には「子ども見守り隊」の方々が青パトで先導してくださり、危険な交差点では、学校支援ボランティアの方々が交通指導をしてくださっています。

また、五年生の「米づくり」学習では、学校支援ボランティアの方が田を貸してくださるだけでなく、田植えから稲刈りまで、丁寧に指導をしてくださいました。今年も二十キロ以上のお米を収穫することができ、調理実習でおにぎりを作り、おいしくいただきました。年間を通した農作業の中で、子どもたちは「手作業の大変さと機械のありがたみ」を実感することができました。

5年生による米づくり
学校支援ボランティアの方から田を借り、
指導もしていただいています。
手作業の大変さに気付くことができました。

子ども見守り隊の皆さんとの対面式
毎日、児童の下校を見守ってくださいます。

夏休み最後の日曜日
PTA親子環境整備活動。

福祉施設の訪問
自然に振る舞うことができる6年生です。

校歌

東小学校校歌

作詞　若山定雄
作曲　中村廣思

一、朝日かがやく　伊吹山
雄々しき姿　眉ひらく
さあたくましく　手をとって
力あわせる　光の子です
たたえよう　その名
東小学校

二、美濃路の松の　芽のように
伸びゆく姿　うるわしく
さあたくましく　手をとって
みんな明るい　光の子です
たたえよう　その名
東小学校

三、濃尾の自然　香る土
豊かな姿　夢あふる
さあたくましく　手をとって
明日は日本の　光の子です
たたえよう　その名
東小学校

【せきしりつむげしょうがっこう】

関市立武芸小学校

●住所　〒501−2601　関市武芸川町谷口1336番地
●TEL　(0575)46−3029
●FAX　(0575)46−1216
●URL　http://www5.city.seki.gifu.jp/muge-syo/
●メール　muge-e@edu.city.seki.gifu.jp

●児童数　101名(H25.12.26現在)

校舎全景

学校の教育目標　『あたたかい心でたくましく生きる子』

沿革

本校は、明治六年に持正庵に教場を設け「玉芻学校」として発足し、昭和三十一年に町村合併により「武芸川町立武芸小学校」となり、平成十七年に市町村合併により「関市立武芸小学校」となり、今年度で開校百四十年目を迎える伝統と歴史のある学校です。

地域の自然や風土

武芸川町は関市の西部に位置し、校区は西は山県市、南は岐阜市に接しています。中心部を東西に武儀川が流れ、その両側に田園地帯があり、北から南東に汾陽寺山脈が走り、早春には一色地区「保木山カタクリの里」にカタクリの花が咲き、自然豊かな美しい景観を示しています。そして、徳川三代将軍家光の乳母、春日局の菩提寺である汾陽寺、宇多天皇ゆかりの宇多坂など由緒ある史跡・名跡が多くあります。

学校の教育目標

『あたたかい心でたくましく生きる子』

あ…【自主】あきらめず自分から取り組む姿

お…【共生】お互いを大切にする心

ぎ…【創造】気づき創り出す頭

り…【健康】りっぱにきたえるからだ

をめざして取り組んでいます。

また、「あいさつ日本一」「日本一きれいな学校」をめざし、子どもたちが自主的な活動をすすめています。

学校のたからもの 1 地域の伝統を引き継ぐ「十六拍子太鼓」

一色地区に伝わる十六拍子太鼓の起源は、十六世紀以前からの伝承だと言われています。その十六拍子太鼓を毎年四年生の子どもたちが「十六拍子太鼓保存会」の方々に教えていただき、約二十年の歴史がある本校の伝統となっています。

三月に引き継ぎをし、五月から十六拍子太鼓保存会の方を講師に招き、九月の運動会に向けて練習を開始します。運動会には、保護者や多くの校区の方々がこの十六拍子太鼓の演奏を楽しみに集まってみえます。毎年、温かい拍手をいただき、子どもたちの頑張りが認められるときです。この他に、「武芸川町敬老会」「関市連合音楽会」「むげがわ保育園との交流会」でも演奏して、校区だけでなく広く武芸小の「十六拍子太鼓」は知れわたっています。特に、むげがわ保育園での演奏では、来年度入学してくる園児に武芸小学校の素晴らしさを伝えることができました。

十六拍子太鼓【むげがわ保育園との交流】

学校のたからもの 2 親子で地域を知る「ふるさと遠足」

毎年五月の日曜日に武芸小学校の伝統行事になった「ふるさと遠足」を行っています。今年で十八回となる「ふるさと遠足」は、学校の特色ある活動として大切にしてきた行事です。

親子で自分たちが暮らす故郷武芸川町の史跡や自然を六年間かけて訪ねています。この活動は、学校と保護者とが毎年反省をして、改善をしながらすすめてきました。

この「ふるさと遠足」は、計画や事前学習のときから「武芸川郷土史研究会」の方々にアドバイスを受けながら、当日は親子に武芸川町の史跡や自然を詳しく教えていただいています。

現在では、低学年・中学年・高学年で各二コースを隔年で行い、六年間で六コースのすべてを訪ねて武芸川町の史跡や歴史を親子で満喫しています。

ふるさと遠足【高学年・春日局のゆかりの地を訪ねて】

校歌

武芸小学校校歌

作詞　佐々木信綱
作曲　高折　宮次

一、雲にそびえる
一つ尾の
高きを
己が心にて
流れたえせぬ
武芸川の
清きを
己が心にて

幼稚園と保育園との交流
【児童会の保健委員会の保育園訪問】

ふるさと遠足【中学年・持正院】

学校のたからもの 3 みんな仲良くなった「幼稚園と保育園との交流」

武芸川町にある武芸川幼稚園とむげがわ保育園との交流を深めています。小学校へ入学してきても園児たちが不安にならないように武芸小の子どもたちが幼稚園や保育園に行って交流したり、園児たちを小学校に招いたりしています。

本年度は、各学年が小学校の生活について園児たちに子どもたちが工夫して伝えました。そのあと「十六拍子太鼓の演奏」やゲームなどをして楽しく遊びました。また、児童会の保健委員会が歯磨きの仕方について伝える取組もしています。今では、児童と園児だけでなく職員同士も仲良くなりました。

学校のたからもの 4 児童会活動

1、ふわふわ言葉でいっぱいになる「ハートフル集会」

一年間、温かい言葉かけである「ふわふわ言葉」を増やし、友だちの心を傷つける「チクチク言葉」をなくしていくことで、仲間を思いやり尊重し合って生活できる子に育つことを願って、取り組んでいます。

この「ふわふわ言葉」の取組は今年で十年目になります。本年度は四月から児童会の計画委員が中心となり継続して取り組んできました。温かい言葉かけや行動をした友だちに「ふわふわカード」を書いて渡しています。昼の放送でも全校に広めたい言動を紹介したりしています。

そして、十一月末にその成果をまとめる「ハートフル集会」を学校開放の日として保護者や地域の方々を招いて行っています。この集会は、今年で八年目になり、本校の伝統行事になっています。本年度の成果が三千五百枚余りの「ふわふわカード」として現れました。また、家庭でも「ふわふわ言葉」でいっぱいになるように取り組んでいます。保護者からは「ふわふわゆうびん」として子どもたちに温かい言葉をいただきました。この取組が地域まで広まっていくように頑張っています。

2、子どもたちが創る「児童集会」

本校には、「武芸小児童会マスコット」があります。「アオギリ」「トテトン」「ツルルン」です。「アオギリン」は学校のシンボルツリー「アオギリ」から、「トテトン」は「十六拍子太鼓」から、「ツルルン」は武芸川町の特産物である「ツルムラサキ」から児童たちが考えて作り、今年で五年目になりました。

このマスコットは、児童集会や児童会行事には、必ず登場します。集会などのめあてを言ったりし、なくてはならない存在になっています。

六年生が内容を考える「なかよし班（縦割りの班）」で活動する児童大集会を年に二回行っています。六月には「なかよし班」対抗のゲーム集会の「スマイルランド」、十一月には「なかよし班」で六年生が考えたコーナーを回る「ふわにこランド」です。

子どもたちが企画運営する自主的な活動に育ってきました。

武芸小児童会マスコット

児童会シンボルキャラクター

児童集会【ふわにこランド】

ハートフル集会
【3000枚以上の「ふわふわカード」】

【ひだしりつふるかわにししょうがっこう】

飛騨市立古川西小学校

●住所　〒509−4215　飛騨市古川町杉崎510番地
●TEL　(0577)73−2229
●FAX　(0577)73−6641
●URL　http://www.school-hida.jp/furunishisho/
●メール　furunishi-6641@school-hida.jp

●児童数　292名(H.25.12.26現在)

緑に囲まれた春の校舎

学校の教育目標　**心ゆたかな古川西の子**
・せいいっぱい学習する子　・せいいっぱい活動する子

沿革・地域の自然や風土

本校は、明治七年「細江小学校」「大村小学校」「袈裟丸小学校」「信包小学校」「数河小学校」としてそれぞれ創立。昭和三十一年の町村合併にともなって統廃合が進む中、昭和四十四年に名目統合して「古川西小学校」となり、翌年の昭和四十五年七月四日に現在の場所に移転して開校しました。以降、七月四日を「開校記念日」としています。

校区は、富山県との境にある飛騨市の南部に位置し、豊かな田園地帯が広がる中、米作りや酪農などの農業が盛んに行われています。地域の団結力も強く、各集落で行われる祭りが引き継がれているなど、地域文化の伝統を大切に守り伝えている土地柄です。

学校教育への協力体制も強く、PTA活動を始めとして、子供会活動や公民館活動など地域の協力的な姿勢が見られます。

学校のたからもの1 学習習慣を大切にする学校

『目を見て黙って最後まで話を聴く』『結論を先に言い、根拠をつけて話す』これは、「飛騨市学習習慣確立指針」として示された授業でめざす姿です。

『目を見て〜』は、授業で互いを大切にし合う姿であり「あなたの意見を大事に聴きますよ」という気持ちを表す姿です。また、『結論を〜』は、授業の本質に迫る考えを逃さないための話し方であり、「自分は何が言いたいのか」をはっきりさせて仲間に伝える力を身につける手段となります。

この二点を大切にした授業に日々取り組み、毎月の評価をしてきた結果、どの学級もこの姿が定着してきています。十月三十一日に行った「飛騨市指定基礎学力定着支援事業実践公表会」では、国語の授業を県内の先生方や保護者、地域の方々に見ていただくことができました。

学校のたからもの2 歌声の響く学校

本校では、児童会の歌声委員会を中心として、全校で合唱を大切にしています。

五・六年生で組織した歌声委員会で『今月の歌』を決め、朝活動の時間に各学級を訪問して「歌教え」からスタートし、全校での合唱練習に取り組んでいます。どの学級からも毎日の朝の会や終わりの会では、元気できれいな歌声が校舎内に響いてきます。

そして毎月行っている「どれみふぁ集会」では、全校合唱と学年発表をして、合唱や合奏を聴き合っています。その際には、児童の互いの感想交流や音楽の教師からのワンポイントアドバイス、他学年の教師からの評価コメントをすることで、合唱の力を高め合っています。

これからも、音楽活動を大切にして、元気で明るい歌声の響く学校を創っていきます。

学校のたからもの3 地域を学ぶ学校

本校では、総合的な学習の時間を通して、地域のよさを学ぶ学習に各学年が取り組んでいます。

一年生は「牧場体験」、二年生は「地域見学学習」、三年生は「りんご作り体験」、四年生は「地域の環境・福祉学習」、五年生は「米作り体験」、六年生は「地域のお年寄りや園児との交流活動」です。

各学年ともに、地域に出かけ、地域の人たちに支えられながら、四月から取り組んできました。その学習の歩みの様子や学んだ成果をまとめた「総合学習発表会」を十二月に行い、お世話になった講師の方や保護者の皆さんに発表しました。

中でも五年生の「収穫祭」は地域学習の最たるものとなっています。田起こしから肥料まき、畦切り、荒くれ、代かき…と手作業による田植えの準備、そして、手植えによる田植えとその後の水管理から稲の成長観察。さらに、稲刈り、脱穀、精米へと続く一連の米作りに地域の指導者の力を借りながら、文字通り「百姓が行く」をテーマに今年度は取り組んできました。愛情と手間暇をかけて取り組んできた「米作り」だからこそ、喜びの多い「収穫祭」となります。神輿担ぎと獅子舞披露、餅蒔きと、昔から人々が味わってきている収穫の喜びを児童が全身を使って表現する発表会を、毎年児童が創意工夫しながら取り組んでいます。本校で行う地域学習の代表的な取り組みの一つになっています。

三学期には、各学年とも下の学年の児童への発表を行って、自分たちの学習のまとめをするとともに、下の学年の児童に次年度への憧れや見通しをもってもらうことを願って取り組んでいます。

学校のたからもの4 地域に支えられる学校

本校の保護者数は二百二十一名。保護者数が少ないこともあり、全員の家庭に専門委員会への振り分けがなされています。つまり、保護者のお父さんかお母さんの内のどちらかが、何らかの委員会に所属していただき、PTA活動に取り組んでいただいています。本部役員会を中心に、「輝く笑顔と素敵な夢」をスローガンに精力的に活動していただいています。

年二回開催の資源回収や環境整備作業、交通安全教室の際の協力など、本校および児童のために熱心に取り組んでいただいています。母親委員会を中心とする「食育・弁当の日」や「読み聞かせ」では、児童の目が輝いていました。今後も、続けていただきたい活動の一つです。

また、本校には発足以来十数年という「古西小見守り隊」という組織があり、毎日児童の登下校に目をかけていただいています。七十名を超える地域の方や保護者、ご家族の方に加入していただいていますが、毎日児童が安全に登下校することを願って、家の前で、集合場所まで、交差点に立って、学校まで付き添ってと、その方にできる方法で児童を見守っていただいています。忙しい中大変ありがたいことで感謝しております。

このように、本校は、保護者や地域の方々に支えられている地域の宝物の学校です。

明るく元気な歌声が響く「どれみふぁ集会」

3年生総合:地域の果樹園で「りんご作り体験」

5年総合:手作業で取り組む「米作り体験」

PTAの方に作っていただいた運動場の雪山

母親委員会による読み聞かせ

見守り隊の方に見守られた安全な登下校

校歌

古川西小学校校歌

作詞・作曲　山本　弘

一、白樺におうよ
　乗鞍の嶺に
小島の城を
　山脈はつつむ
清らかな夢を
　清らかにつちかう
心のふるさと飛騨高原に
古川西の子　我らは学ぶ
　力をあわせ

二、若鮎おどるよ
　宮川の瀬音に
お獅子の笛に
　稲穂もそよぐ
すこやかなのぞみ
　すこやかにあふれる
心のふるさと飛騨高原に
古川西の子　我らは学ぶ
　明るく強く

【みずなみしりつかまどちゅうがっこう】

瑞浪市立釜戸中学校

●住所　〒509−6124　瑞浪市釜戸町3361番地の3
●TEL　(0572)63−2069
●FAX　(0572)63−4011
●URL　http://kamachu.city.mizunami.gifu.jp/
●メール　kamachu@city.mizunami.lg.jp

●生徒数　70名(H25.9.1現在)

学校のたからもの

学校の教育目標　自ら求め共に学ぶ　・確かな学力・たくましい身体・豊かな心

学校の沿革・地域の様子

本校は昭和二十二年に土岐郡釜戸村立釜戸中学校として開校し、昭和二十九年瑞浪市立釜戸中学校に改称、昭和三十六年大湫中学校統合を経て、現在に至っています。校区にある中山道の琵琶峠には、皇女和宮が詠んだとされる和歌や宿場町として栄えた本陣が現在も保存されています。また、釜戸地区には、西行法師を始め平安時代からの多くの和歌が残されています。

昭和三十七年には四百四十七名（本校史上最多）であった生徒も、今年度は全校七十名となり、平成三十一年度に瑞浪市北部にある三校で学校統合することが決まっています。地区内から中学校がなくなることが決まっただけに、生徒の地域への思い、地域の中学校への思いは強いものがあります。

学校の教育目標

自ら求め共に学ぶ
・確かな学力
・たくましい身体
・豊かな心

この目標の下、今年度の学校の取り組むべき重点の一つが「地域と連携し、子ども達に実践力を付けること」です。

このために本校では、地域や家庭と連携して、様々な取り組みを行い、それが、生徒自身の誇りや宝物につながってきています。生徒会は、「自分たちの誇れる釜中」をスローガンとし、「地域を支える貢献」を柱の一つに掲げ、夏祭りへの参加やゴミ拾いなど、自主的に地域に対しての活動を広げています。また、PTAも「家庭、地域との絆を深めよう」をそのスローガンとして活動するなど、地域・PTAともこうした学校の活動をあたたかく支えて下さっています。こうして「学校が地域と関わり、地域が学校を支える」関係が生み出されています。

学校のたからもの ❶ 全校で参加した夏祭り

生徒たちが夏祭りに参加し、祭りの運営の一翼を担う中で、地域の方々と顔と心をつなぎ、釜戸町や大湫町、自分の住む地域の担い手となる礎を築くことは大変有意義であると考えます。また、釜中生の素晴らしさを地域の方々に知っていただきたいとも考えました。

一年生は伝統文化の継承という面から地域の方に太鼓の指導を受け、当日は盆踊りの拍子を取りました。二年生は盆踊りを練習し、当日も町から半被を用意していただき地域の方々と共に踊りの輪を作りました。三年生は祭りの本部の手伝いや、自分達で考えたブースを開設し祭りを盛り上げました。また、PTA母親委員会は、手作りパン屋も出店しました。

活動後の生徒は、次のような充実感を得ることができました。「私たちは、夏祭りで出店するためにいろいろ計画を練りました。私たち中学生が目指したのは幼児園児、小学生など小さい子が楽しめる場所にすることでした。『他の店とかぶらないようにしよう。』と考えて、『水鉄砲の射的』をすることにしました。当日は『もう一回やる。』と笑顔で並んでくれる子たちがいて、楽しんでもらえていると感じることができました。本当にやって良かったと思います。協力してくださった方々に感謝します。ありがとうございました。」

地域の小さい子とふれあう生徒

校歌

釜戸中学校校歌

作詞　加藤喜一
作曲　森島　勇
編曲　粟田忠彦

一、清き流れや　土岐川の
おどる若鮎　さながらに
たぎる健康　はつらつと
明るき光　窓に満つ

二、東に高き　おお恵那や
南に仰ぐ　屏風山
つつむ緑の　平和郷
集う我らに　栄えあれ

地域の清掃活動に励む生徒

学校のたからもの ❷ 生徒会が発案した地域清掃

昨年度から生徒会が自分たちで考え、打ち出した「ゴミ拾い活動」は、毎月一回、登校時に各自がゴミを拾う形で実施してきました。地域のために何かできることはないかという心と行動する力の表れの一つであると考えます。さらに今年度は執行部が「場所や内容を変えて貢献できないだろうか。清掃活動はどうだろう。」と考え、全校にアンケートを実施し、安全と集まり易さを考慮した結果、釜戸駅前周辺と土岐川沿いで清掃活動をすることにしました。みんな本当によく働きました。駅を利用する方や道を行く方にあいさつをしながら、ゴミ集めに精を出し、約一時間で、駅前と河原を大変きれいにすることができました。最後には、集めたゴミを前に、駆けつけて下さった地域の方からの「釜戸には頼もしい中学生がいる。そのことが大変嬉しい。」とお言葉をいただきました。自分達が踏み出した一歩が、地域の方々の喜びにつながることを、実感できたひとときとなりました。また、こうしたことを全校で話し合うことのできる生徒集会も本校の宝のひとつです。

学校のたからもの ❸ さわやかな合唱を地域に発信

釜中生は合唱を学校の伝統と捉え、自分たちの歌声の質を高めていきたいという思いをもち、日々練習に励んでいます。今年度は生徒数の減少もあり、学校の代表となる合唱を二、三年生合同で創ることにしました。毎日十分間の「合唱の時間」での練習ですが、三年生は下級生に歌い方、練習の方法、歌う心を自分達の姿で一生懸命伝えようとしました。こうした毎日の努力の成果として、今年も美しいハーモニーを創りあげ、地域に発信することができました。

発信する場は、町の文化祭と同じ日に実施する釜戸小中音楽会や、瑞浪市小中学校音楽会です。ここでは地域の方々から様々な声をいただくことができました。「釜戸中の歌声、素晴らしかったね。」という賞賛の声や、「子ども達の歌声に涙が出ました。」という保護者の方々からの感想です。このような反応をいただきながら、やり切った充実感や自分のもてる力を出し合って合唱をつくりあげる貴重な経験を得ることができました。

以上のような宝物活動を通して生徒は、釜戸中学校や自分たちへの「誇り」や「自信」をもち、豊かな心をもった人間に育っています。

地域に歌声を披露する生徒

Contents

岐阜県PTA連合会子育て情報機関誌
平成26年3月1日発行／第65巻5号
通巻第432号

わが子のあゆみ

2014.3 No.432 春風号

表紙　白川町立佐見中学校

学校のたからもの 1
垂井町立東小学校／関市立武芸小学校／飛騨市立古川西小学校／瑞浪市立釜戸中学校

わが家の宝物　可児市立桜ケ丘小学校PTA会長　細田　修　9

特集　東日本大震災　被災地中学校との交流を通して 11
岐阜市立陽南中学校・揖斐川町立春日中学校・可児市立中部中学校

わが家のルール 16
大野町立南小学校PTA会長　羽根敏男
岐阜市立陽南中学校PTA会長　臼井弘人

家庭教育応援団⑩ 17

シリーズ「療育」⑮　岐阜県立岐阜聾学校　19

お弁当の日　瑞穂市立西小学校PTA　21

保健室ノート　揖斐川町立久瀬小学校養護教諭　遠藤はるみ　23

頑張る父親！おやじニュース［30］ 25
美濃市立牧谷小学校PTA
美濃市立藍見小学校PTA
美濃市立中有知小学校PTA
美濃市立昭和中学校PTA

私の先生　可児市立蘇南中学校教諭　西浦いづみ　27

子育て半生記　土岐市立泉中学校PTA会長　有我直文　29

私が出会った1冊の本【続16】 31
下呂市立中原小学校PTA　犬塚幸子
岐阜市立東長良中学校PTA会長　森　康次

子の思い・親の願い・教育の窓 33
子の思い
海津市立石津小学校　3年　水谷真子
岐阜市立厚見小学校　6年　島辺琴葉
高山市立宮中学校　1年　江田夏未
親の願い
垂井町立府中小学校PTA　近藤純子
山県市立大桑小学校PTA　会長　岩田　均
大垣市立西中学校PTA　会長　名倉準市
教育の窓
中津川市立落合小学校　校長　伊藤秀久
美濃市立大矢田小学校　教諭　澤田小百合
多治見市立南ヶ丘中学校　校長　谷口千鶴

親子ではてな 40
インフォメーション 41
お試しクッキング　岐阜県学校栄養士会　42
菜の花とあさりのパスタ

ふるさとの伝承　ひねり踊りの伝承活動
高山市立荘川小学校　43

キラリキッズ
岐阜市立網代小学校　45

夢中！熱中！我らが部活
瑞穂市立巣南中学校　47

私たちのPTA
飛騨市立宮川小学校PTA　49

わが家の宝物

可児市立桜ケ丘小学校　ＰＴＡ会長　細田　修

友人の間で「これを玄関に置くと子どもを授かる」と言われた一対のウサギの置物。その効果があったのか、わが家は四人の子宝に恵まれました。そして、長女が小学二年生になった時、仲良しのNちゃんに「一緒にどう？」と誘われて始めたのがスポーツ少年団のバレーボールです。以来六年が経ち、中一になった長女はあのウサギのようにジャンプをしてアタックを決めるようになり、小学生の次女と三女も五歳の長男も、スポーツ少年団や公園で夢中になってボールを追いかけています。

そう、わが家の宝物は「バレーボール」です。それまでこのスポーツに無縁だったにもかかわらず、オリンピックで銅メダルを獲得した時は家族中が熱狂し、国体やVリーグに全日本メンバーが来るとなれば観戦に行くなど、家族にとって共通の話題となり、全員がB型の家族を一つにまとめてくれる存在となっています。

そして、バレーボールを通じてわが家の交友関係の幅は大きく広がりました。四人の子どもは、同学年のチームメイトだけでなく異学年やとなりの学校の子どもたちとも仲良くなりました。幼稚園に通う長男にいたっては、チームのお姉さんやその家族に育ててもらったようなものです。私たち夫婦も、自然とコミュニティ内に気軽に話せる仲間を作ることができました。すべてバレーボールのおかげと感謝しています。

ただ、土日の練習が終わった翌日のわが家のベランダには、決まって肘と膝のサポーターが合計十二個ぶら下がっている状態。シャツや靴下もあり洗濯が大変と、妻は嘆いていますが、それにも代え難い貴重な関係性や経験を「バレーボール」から与えてもらっていると感じています。

東日本大震災「被災地中学校との交流を通して」

三月十一日。東日本大震災に襲われたあの日から三年目。復興に向けた援助の手が差し伸べられていますが、多くの方が仮設住宅や避難先での生活を余儀なくされています。仮設校舎で学んでいる子ども達がいます。体育館が壊れ、不自由な部活動を強いられている学校もあります。

平成二十五年三月、岐阜県PTA連合会は岐阜市立陽南中学校、揖斐川町立春日中学校、可児市立中部中学校の生徒十二名とともに、宮城県仙台市を尋ねて被災地を視察。仙台市立折立中学校を訪問して交流活動を行いました（被災地中学校との交流事業）。

参加した各中学校の皆さんは、帰校して交流で得られた情報をもとに仲間とともに新たな活動を展開しました。参加した中学生の皆さんの報告です。

岐阜市立陽南中学校

（参加した生徒の手記より）

一、交流事業への参加理由

河口から逆流してくる津波が、港や沿岸の街に襲いかかる映像を今でも忘れることができません。震災から二年経っても、その傷跡が消えない東北の様子をテレビで何度か見るうちに、実際に行ってみたいと思うようになりました。今、被災地はどんな様子なのか、僕たちは何をすればよいのか、肌で感じたいと思いました。私たち中学生が参加できる事業があることを知り、参加を希望しました。この事業に参加することで、被災地の方の想いを知り、それを多くの仲間に伝え、みんなで受け止め、考えていきたいと思いました。

二、交流事業から得られたこと

改めて震災は怖いものだと思いました。一日目、海岸までバスで見に行ったとき、何もない景色に「ここは本当に日本なのか」と思うほど衝撃を受けました。正直、信じられませんでした。また震災や津波の被害は建物が流されるだけでなく、普段の生活にも影響を与えるほど、人々の心を傷つけるものだということも知りました。水洗トイレの渦が津波を思い出させるから、トイレが使えなくなってしまった女の子がいたそう です。学校生活では、部活動ができなくなり、先輩と後輩の交流ができなくなってしまい、内気な生徒が増えていったそうです。これらの話を聞くうちに、何気ない私達の生活がかけがえのないものであり、「今、この瞬間が大切」ということを改めて感じました。

悲しい話が多い中、津波の被害を最小限にとどめ、多くの命が助かった話も聞きました。

閖上地区の人はどうすれば津波から自分の命が守れるのかを事前に考え、訓練や備えをしていました。そのため、多くの人が助かったということでした。地域の特色にあった避難方法を考えたり、地域の人々がつながりあって協力したりすることの大切さを感じました。実際東北には、「がんばろう東北」「がんばろう宮城」のスローガンが掲げられ、多くの方がボランティアとして活動されています。こうした人とのつながりが何よりも重要であることを感じました。

二日目は仙台市立折立中のみなさんと交流しました。先生方や生徒会のみなさんが温かく迎えてくださいました。みなさんの笑顔に本当にうれしい気持ちになりました。辛いときでも笑顔を絶やさない、折立中学校のみなさんから私達は逆に力をもらいました。

三、学校で行われた活動と内容

岐阜に帰ってからは、被災地交流で学んだことや、感じたことを陽南中学校の仲間にも伝えて、みんなで考えたいと強く思いました。僕たちの学校には、福祉部という委員会があります。この委員会では、ボランティア活動をしたり、エコキャップを回収したりするなど、学校に「やさしい心」があふれることを願って活動をしています。まずは、福祉部長が全校に向けて、この交流で私達が体験したことを紹介しました。スライドで実際の写真を紹介しながら説明しました。この紹介を通して、被災地の今を知り、引き続き支援のためにできることを考えてもらいたいと思いました。

この貴重な体験を地域にも広げていきたいと思い、校区内の小学校にも説明をしました。陽南校区には「さわやかサミット」という小中学校生徒会による交流があります。これに被災地交流で自分達が感じたことを伝え、少しでも現状を知って欲しいと思いました。

せっかく学んだことを、実際に試せないかと生徒会が主催して「中学生がつくる防災訓練」を行いました。これは、炊き出し訓練や土嚢訓練、煙体験、起震車体験など実際に災害があった時の行動や避難の仕方、避難所での生活を考えるための体験でした。この「防災訓練」は、PTAの方や消防署の方など多くの方の支援を受けて実現しました。「防災標語を考えよう」というコーナでは、防災についての意識などを標語にしました。そうすることで普段から防災への意識を高めていくきっかけとなりました。今回は訓練でしたが、本当に震災が起こったらどうなるのか、おそらく多くの人が慌てふためき、混乱すると感じました。

今、被災地のみなさんはとても辛い思いをしてみえます。街も建物も思い出も全て流された中を、みんなが傷付いた心を奮い立たせ、一から築き上げていこうとしています。私たちも、普段から震災について考えておくこと、そして仲間のことを考えて動くことを大切にしていくことが、こうした災害を乗り越えていける大きな力になると思います。そんな力強さを折立中のみなさんや東北の人々から感じました。

四、意見や感想

◆交流事業を通して、やってみると分かることがたくさんあります。実際に防災訓練をやってみて、分かったことがたくさんありました。陽南中学校の設備や防災グッズだけでは、本当に災害が起こったときには対応できないと思います。これから本気で考えていくことが必要です。もし、地震が起きて大変な状況で生活していくには、人同士がつながり、協力していくことが何より大切なことだと思いました。

◆いつ起こるか分からない災害だからこそ、日頃から対策をとっておくことが大切だと思いました。大変な状況になったときに、柔軟な思考と行動力があれば、多くの困難を乗り越えていけると思いました。これから、防災に対する意識を高めていきたいです。

五、成果とこれからの課題

〈参加した生徒の手記や様子から〉

交流事業によって、今まで経験したことのない風景や現状を目前にし、参加した生徒は戸惑ったようです。しかし、折立中学校のみなさんや地域の方の前向きでひたむきな姿に感動し、被災地の方がこれだけがんばってみえるなら、私達も「がんばらねば」と逆に勇気をもらったようでした。

これからの課題は、人とのつながりの大切さについて学んだことを、日常生活にどう生かしていくかです。参加した生徒達は学校の仲間に伝えて、これからの生活でも災害対策について考えていきたい。と意欲的に活動しようとしていますが、学校内だけの活動では広がりがないですし、ましてや災害については、地域や公共機関とも連携していかなければならない課題です。中学生だけでなく、保護者や地域のみなさん、専門的な知識を持った方々と交流するなど、活動の範囲や質を深めていくことが今後の課題だと思いました。

平成25年9月20日
「中学生がつくる防災訓練」全校合唱

災害時での食事や段ボールハウスでの生活の一部を体験し、防災について考えました。その最後には全校で「私たちにできること」について、一人一人が考え、精一杯歌う合唱で表現しました。

揖斐川町立春日中学校

一、交流事業への参加理由

春日中学校は、揖斐郡の山間部にある全校生徒八人（平成二十四年度。なお、二十五年度は三名）の学校です。今年（平成二十五年）の一月に、教頭先生が宮城県に震災ボランティアに行かれたときの話を聴きました。そのとき、「私たちにできることは何か」ということを尋ねられたのですが、すぐに答えることはできませんでした。その後、県PTA連合会主催の交流の話を聴き、この交流にぜひ参加し、実際に見て、感じて、考えてみたいと強く願いました。そして、震災の様子を聴いたり、どのように復興しつつあるのかを見たりしたいと思いました。その中で、「人のつながりの大切さ（絆）」や「命の尊さ」などを学べると考えたからです。また、そこで学んだことを先生や保護者の方、学校で交流をしている町内の他の学校の仲間に伝えることで、仲間や先生、保護者の方と一緒になって「自分たちに何ができるか」を考えて、行動できると思い、参加を希望しました。

一日目に、仙台市内をバスで見て回りました。きれいな街を通り、私は「けっこう街もきれいになっているのだな。」と思いながら、窓の外を見ていました。しかし、バスが海岸の方へ向かうにつれて、

私は、とても暗い気持ちになりました。外の風景を見ると、波に何度も打ちつけられ斜めに曲がって立っている木、折れ曲がった電柱、ずっと広がる家の跡、そこに草まで生え始めていました。「復興と言っても、現実は、まだ遠い。」と感じました。

荒浜小学校の様子を聴きました。全校で四階へ避難したこと、四階から外を見ると黒い波の中に家や車、悲鳴をあげて流される人たち、波がひいた跡にはたくさんの遺体。話を聴いているのが、とても辛く、涙が出てきました。

二、交流事業から得られたこと

二日目の折立中学校での交流会では、ライフラインが復旧していない間の生活の様子や、避難訓練の大切さ、近所同士が助け合うありがたさを聴きました。ものすごく大変なことがあったのに、私たちを笑顔で迎えてくださったのをうれしく思いました。

折立小学校の教室に「心㊤れずに㊤ち上がろう」という紙が掲示されていました。プレハブ校舎に掲示してあった一枚ですが、そこからすごいパワーを感じました。

岐阜県に帰ってきて、テレビや新聞で、住み慣れた家を離れ転校する子どもがいること、家族が離れて暮らしている人が多いこと、農業、漁業、家畜を飼っていた人たちが仕事をまだ再開することができないことなどのニュースを見ると、私の中にバスから見た風景がよみがえってきて、なかなかはかどっていかない復興に「どうして、もっと早くできないのだろうか。」と感じました。

（帰校後、書いた作文より）

それまで、テレビの中の出来事のように人ごとと感じる部分が強かったのですが、交流を終え、確実に「自分たちにできることは何か」を考え続けるようになったと感じました。その思いをもとに、次のような活動を行ってきました。

三、各学校で行った活動と内容

（一）見て、感じて、考えたことを地域の方に伝える活動

春日地区の青少年育成会議では、訪問したときの様子を紹介し、その後、実際に行って見て感じたことについて、発表しました。その中で、「現地では、心に寄り添うボランティアが大切であること」や「今、できるのは実際に現地で見聞きして思い、考えてきたことを多くの人に話すこと」と発表しました。

また、揖斐郡少年の主張大会や西濃地区英語スピーチコンテストでも感じたことを発表しました。

（二）被災地でのボランティア参加

主張大会などでは被災地の現状を伝えることはできましたが、「なかなかボランティアとして、現地を訪れることができない」と感じていました。そんなとき、岐阜県内で定期的にボランティアを行ってみえるＮＰＯ法人があることを知りました。そこで、生徒三名、保護者・教員の総勢二十名で、被災地でのボランティアに参加することにしました。

事前に、その団体の方に来ていただき、ボランティアを始めた思いや活動の目的を教えていただきました。そして、「自分で考えて動く」ことを目標に現地を訪れました。

今回のボランティアは、宮城県気仙沼市の仮設住宅を訪れ、そこに暮らしてみえる方々と一緒に郷土料理を作ったり、遊んだりするイベントを行いました。まさに「心に寄り添うボランティア」に参加できました。

（三）地域のまつり（こいやーかすが）での発表

被災地の交流、被災地でのボランティアを通して、あらためて「私たちにできることは何か」を考えたとき、地域のまつりで再度、発表することを考えました。生徒たちの体験を広めることを継続することによって、今回の震災を忘れないようにしていくことができると考えました。なお、こういった取組については、地域のケーブルテレビ、新聞等でも紹介されました。

（四）地域施設でのパネル展示

最後に、これまで取り組んできたことについて、パネルにまとめ、地域の観光施設に展示させていただきました。より多くの方に知っていただけるようにしようということで、行いました。

四、生徒の意見や感想

（「こいやーかすが」での発表から）

私は、今回のボランティアに参加して、被災地の方々の役に立てたと思います。私が担当したのは、栗粉餅作りです。作業をしながら、気仙沼の方々と話をしました。話が進むにつれて、気仙沼の方々の笑顔が見られるようになり、まるで前から知っている近所の方々と話しているように感じられました。

「復興は、そう簡単なものではない。自分一人ぐらいが数日間のボランティアに参加しても何も変わらない。」と言う人もいるでしょう。確かに、今回、私が訪れた気仙沼でも、未だに多くの方が仮設住宅での生活を余儀なくされています。しかし、今回、短い時間ではありましたが、被災地の方々と楽しい時間を共有し、コミュニケーションを図ることで、目には見えない「心の復興」に役立てたという手応えはあります。

「一人の力は微力だが、無力ではない。」ＮＰＯ法人の代表の方の言葉をかみしめています。

五、成果とこれからの課題

今回、被災地中学校との交流したことをいかし、一年間を通して、発表したり、ボランティア活動をしたりすることができました。まずは、「何かできることはないか」という問いかけの答えの一つとして、広めることを中心に行い、「被災地の現状を忘れてはいけない」「被災地のことを忘れさせてはいけない」ということを考え、行動することができました。また、実際に被災地にボランティアへ行くこともできました。こういったつながりをもった取組によって、今回の震災が決して人ごとではないと感じることができました。

今後、継続した取組を行っていけると良いと思います。しかし、残念ながら、春日中学校は今年度で閉校することになりました。ですから、一人一人が、今回の貴重な体験をもとに広めていくこと、ボランティアなどに積極的に参加していくこと、そして、何よりこの震災を忘れないことが大切であると感じています。

心でつながる

可児市立中部中学校
三年　小池　有加

「テレビには映らない東北の現状を知りたい、東北の人の気持ちを知りたい」そんな思いを持って私たち中部中学校代表四名は、被災地訪問の企画に参加しました。

私たちが被災地へ行ったのは二〇一三年三月。被災したと思えないほど賑やかだった仙台駅に着いた時、「ここは本当にあの被災地なのか」と、訪れた私たち全員が思いました。戸惑いを隠せず一歩繁華街を出ると、その賑やかさは影を潜め、別世界のように静かで、暗い雰囲気がありました。バスで移動すると、衝撃的としか言えない景色が目に飛び込んできました。積まれてそのままの瓦礫。なぎ倒された木々。亀裂が走る道路。鉄骨がむき出しになり、骨組みしかない家……挙げだしたらきりがないほど衝撃的な光景は、決してテレビでは分からない地震や津波の脅威を物語っていました。「震災から二年経ってもなお、復興の足跡が見えない地域がある」という認識をもっていなかった私は、恥ずかしくなりました。自分が当たり前のように毎日の生活を送っているとき、東北では、一日一日を懸命に生きている人がいるのだと思うと、自責の念が込み上げてきました。

もう一つ、衝撃的だったのは、交流した中学校の生徒が大変優しく楽しい雰囲気でいたことです。現地の中学生は、私たちに笑いを交えて話してくれました。震災で辛い思いをしていたはずです。それでも実体験を交えて笑顔で話す中学生を見ていると、私たちよりはるかに大人に見えました。「震災ではライフラインが途絶えたことが一番大変だった」「やりたいことが思うようにできなかった」と現地の中学生は話していました。余震や津波への不安、恐怖…私たちには想像もつきません。何が彼らを支えているのだろうと思い質問すると、彼らは「地域の人との関わりだ」と答えてくれました。彼らは、自由に身動きが取れない中だから、たくさんの工夫と努力をして関わりを生み出し、自分たちの手で生活を創っていこうという強い信念をもっていました。

被災地での訪問・交流を通して、私は２０１１・３・11を忘れないために「自分たちにできることは何か」を考えました。頭に浮かんできたのは、各学校で描いた「目指す東北像」のポスター掲示です。私は、そのポスター掲示から、被災地の小中学生の素直な思い、願い、そして、「絆」を感じました。そして、「私たちもつながりを形にして、視覚的にも絆を確認できる、そんな取り組みをしたい」と考え、大きく二つのことに挑戦しようと決めました。

まず一つ目が、「きらり無限大」という取り組みです。仲間の良さを見つけ（以降「きらり」）、それを輪としてつないでいくというものです。仲間とのつながりや良さを認め合える温かさを目に見える形にし、温かいつながりを無限に広げていきたいという願いを込めて活動を始めました。月に一回、仲間に広めたい良い姿を、行事に関連させたり、テーマを決めたりして集めました。その「きらり」は、十月の前期終了時点で一六〇ｍにもなり、体育館をゆうに一周するほどの長さになりました。今では、二〇〇ｍに到達しそうな長さになっています。いつも先頭に立って仲間を引っ張って

いる人だけでなく、さりげなく仲間を助ける人、普段なかなか注目されない人の良さも書かれていました。そのせいか、「きらり」を掲示した廊下で立ち止まって天井を見上げる人が増え、「すごいね」と話しながら通過する人が増えました。いつもは気にもせず通過されていた委員会掲示も、立ち止まって見ていく人が増えました。一気に廊下が明るくなったように感じました。

人の良さを見つけることは、容易に見えて意外と難しいことです。しかし、この「きらり無限大」の活動を始めて、仲間の姿に目を向ける人が多くなったと思います。仲間との絆を視覚的に示したことで、自分たちの活動を意識しやすくし、その伸びを実感することができました。仲間とのつながりが生み出す「安心感」は、この上ない「支え」なのだと痛感しました。

二つ目に、「合唱でつながる」ということです。今年度の八月に行われた、可児市の中学校代表が集まる生徒会サミットでは、「心がおりなす三重奏～自ら関わる・広める・深める～」ということをテーマに活動していくことになりました。そこで、中部中学校から「合唱で東北の人たちと心でつながろう」という企画を提案しました。三重奏に込められたうちの一つである「地域」との関わりという面で、可児市が被災地とつながれたらと考えたからです。被災地の学校と交流した時、BGMで「Believe」が流れていたことを思い出しました。「いま未来の扉を開けるとき　悲しみや苦しみが　いつの日か喜びに変わるだろう」……被災地への義援金、ボランティアの輪など、震災から三年が経とうとしている今なお様々な形でつながる支援は、まさに日本の底力、団結力の表れです。私は、この可児市が少しでもその力になれたらという思いで提案しました。

今、可児市中の中学校が復興への願いを込めた合唱をして録画している最中です。中部中学校では、三年生の有志七十一名（以降合唱部）で合唱をしました。被災地視察で自分が見てきたこと、現地での中学生との交流したことを仲間にぶつけると、待っていたのは仲間の快諾。やらされている合唱ではなく、自分たちで創る合唱でした。東北で今も苦しみと闘っている人へ、一日でも早い復興に向けて、日々活動している人へ……。今、自分たちにできる「最高の合唱」という形で表現しました。

撮影後、合唱部の仲間が、「私たちの歌声で、今よりさらに元気になってくれたらうれしい」「住んでいる場所は違ってもみんなの心は一つ！」「私の笑顔でみんなが幸せになりますように」…仲間がそんな思いを込めて歌ったことを知り、目頭が熱くなりました。

合唱で元気づけたいと思いながら活動していた中で気づいたことは、「共有することのパワーは絶大だ」ということです。仲間と被災地への思いを話したり、合唱で表現しようとしたりして、合唱の目的を共有することができました。だから、歌っていた私たちも楽しく、心から笑い合うことができたのだと思います。日常から築いてきた絆の深さを、私たち自身が実感させられたように思います。

私たちは被災地見学を通して学んだことを、以上のように実践してきました。今年度中部中学校生徒会スローガン「心交（シンクロ）」には、「仲間と心でつながり、社会に通用する感性を磨きたい」という願いが込められています。東北へ行き、「心でつながる」ということが改めて生きるための力になる」ことが実感できました。私たちの小さな一歩かもしれませんが、その小さな一歩が東北との距離を縮め、場所を問わず、これからの日本を支えていく力になればと願っています。

わが家のルール

羽根家の巻 44

「早寝早起き」と「子どもとの時間を大切にする」

大野町立南小学校PTA会長　羽根　敏男

我が家は、私たち夫婦と娘二人の四人家族です。特にルールといったものは決めてはいませんが、子どもの成長にあわせて心がけている事について紹介したいと思います。

ルール①　「早寝早起き」

我が家では特に休日前だからといって、夜更かしをする習慣がありません。だらだらと夜を過ごすより、翌日の早朝から行動できるよう心がけています。また早く起きるので、しっかりと朝ごはんを食べる事もできます。休日の朝早くからにぎやかで、ゆっくりした朝などは辛いものがありますが、生活のリズムを崩すことなく過ごしていきたいと思います。

ルール②　「子どもとの時間を大切にする」

これから子ども達が中学生へと成長していくにつれ、部活や習い事に時間がとられていくのではとの思いから、今だから一緒に出来ることを大切にしながら家族との休日を過ごすようにしています。勉強も遊びも多くの事を経験して、引き出しの多い人生を歩んでいけるように、また自立心を育みながらそれをあたたかく見守れる家庭を、これからも築いていきたいと思います。

わが家のルール

臼井家の巻 45

人に優しく　自分に厳しく

岐阜市立陽南中学校PTA会長　臼井　弘人

我が家は、私たち夫婦、長女、長男、次女、三女の六人家族です。子どもが産まれ、大きくなるにつれて我が家のルールが多くなっていった気がします。

普通の家庭にあるルール、風呂・玄関・部屋・掃除・食事の支度・愛犬担当など、子ども達には色々な当番があります。

そして「おはようございます」～「おやすみなさい」までの全ての挨拶。一度決めたら、最後までやり通す。困っている人がいたら、助ける。

中でも我が家の大きなルールは、

一、上の者は、下の面倒を見る。兄弟姉妹は仲良く。
二、外出には門限あり。
小学生五時、中学生六時三十分、高校生十時。
決めた門限を一秒でも遅れると、一カ月間外出禁止になります。
三、中学生までは携帯電話なし。
無駄な物は我慢する事。

我が家のルールは、長女を育てる時にできたルールでしたが、そのルールを長女が弟妹に教え、今では我が家のルールになっています。「ルールは教えるもの躾は見せるもの」だと思っています。子ども達には、「人に優しく　自分に厳しく」できる人になってもらいたいと思っています。

シリーズ⑩
岐阜県教育委員会
社会教育文化課

家庭教育応援団！
～家庭教育学級取材記～
「平成25年度岐阜県消費者教育スモールステージ」

○消費者教育って？

消費者教育と聞いて皆さんはどんな内容を思い浮かべますか。お金や悪質商法…などでしょうか。実は、消費者教育というのは、とても幅広くて、生活（携帯電話・インターネット・おこづかい・貯金など）、安全（食品や製品の安全など）、環境（エコ・リサイクルなど）、震災（節電・買占めなど）などがあり、家庭教育学級として、保護者が学ぶテーマの一つとして、取り組んでいらっしゃるところもあります。

県教育委員会では、「小・中学校の児童生徒や保護者、地域住民を対象に、学校等において保護者や地域と連携して、自立した賢い消費者になるよう学ぶ」ことを目的に、昨年度から「消費者教育スモールステージ」事業を開催しています。今年度事業を実施した十二校の中から、海津市立吉里小学校での様子をお伝えします。

企業・団体による出前講座

◇低学年「カードゲーム　お金の役割」（SMBCコンシューマーファイナンス）

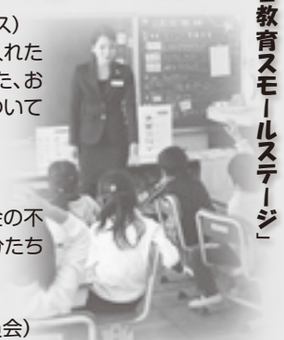
カードゲームを使用して、班で協力し交渉することでほしいものを手に入れたり余ったものを有効に活用するための貨幣のよさを実感したりしました。また、お金の役割である「物と交換する」「価値をあらわす」「価値を蓄える」ことについても、カードゲームを通して楽しみながら学びました。

◇中学年「あなたもお金はかせになっちゃおう!」（岐阜県金融広報委員会）

普段使われているお金について、クイズを通して理解を深めました。お金の不思議や秘密、お金の3つの役割や税金について、楽しみながら学び、今、自分たちにできることをみんなで考えました。

◇高学年「大人になっても困らないお金の基礎知識」（岐阜県金融広報委員会）

「お金はなぜあるのか?」を身近な事例から考え、「使う」「貯める」「もらう（かせぐ）」というお金の動きと、役割について学びました。また、講師が作詞作曲した歌を通して、お金の大切さや夢をもつことの大切さに気づきました。



▲お金の役割を考える
1、2年生の子どもたち

感想
心に残ったのは、「お金=感謝」ということです。お金のやり取りをするということは、感謝の交換をするということです。自分が働くと周りの人の役に立って、自分もお金がもらえて、自分も周りの人も幸せになれるということなので、ぼくは家で手伝いをして、自分も相手も幸せになるということがわかったので、まず簡単なことから始めて自分も周りの人も幸せにしていきたいです。（6年男児）

家庭教育学級「親子で共有するお金の話」（SMBCコンシューマーファイナンス）

家庭教育学級として開催された出前講座では、お金のトラブルについてお話を聞きました。「振り込め詐欺」の手口として、「架空請求詐欺」や「ワンクリック詐欺」の実態を知り、その対応を学びました。

また、子どもがそのような詐欺に遭ったとき、家族に話すことができずに、お金を支払ってしまうことが多いと聞いて、日頃から子どもと何でも話せる関係を築く大切さを感じていらっしゃるようでした。

講師の方が実際に体験した「振り込め詐欺」のお話から、不安になって電話をしたり、返信したりせずに、無視するという対応が重要だと学びました。

今日のお話を、家庭で話題にして親子で共有することが大切だと確認しました。

熱心に耳を傾ける▶
家庭教育学級の参加者

感想
消費者の立場として、詐欺に遭わないようによく確認し、落ち着いて判断できる目や心でありたいと改めて思いました。（保護者）

デジタル芸人アキラボーイによるステージ「かしこい消費者になろう!」

◇インターネットでお買い物をしてみよう!

「1円でTシャツが買える!」という話にとびついたアキラボーイとタヌキチくん。実は、よく見ると「送料別途」「手数料別途」などの大切な情報が、小さな字で書いてあり、請求金額は二千円を超えていて、びっくり。注意事項をしっかり確認することを教えてもらいました。

◇インターネットの落とし穴

インターネットで「タヌキチくん」と検索すると、「タヌキチくん無料ダウンロード」というサイト。ボタンをクリックすると、どんどん違うページに変わり、最終的にはIDやパスワードなどの個人情報が盗まれてしまうことに。怪しいサイトは開かないことを確認しました。これら以外にも、携帯電話の落とし穴として、無料ゲームといいながら課金されてしまうなど、子どもたちに起こりがちな身近な事例を取りあげ、楽しみながら気をつけたいことを学びました。

こぼればなし…

海津市立吉里小学校は、今年度「**日本PTA全国協議会会長賞**」を受賞されました。平成23年度から24年度にかけて取り組んだ、在宅型の家庭教育学級を中心にした内容が評価されました。長期間続けることで、親として力をつけることを目指して取り組まれました。

各家庭で毎日、子どもの良い姿や親自身の頑張ったことを見つけて、親がカレンダーに記録する「**やったー!カレンダー**」や、各学年に応じた本を親子で読み、親が一言感想を書く「**親子読書**」がおもな取組です。これらの取組を定着、意識化するために、どちらも講演会をもち、大切にしたいことや方向性を確認しながら取り組まれました。また、他の家庭との交流が図れるような機会が設けられ、励まし合いながら高まり合おうとされたことも長く続ける秘訣だと感じました。

親子読書の一言感想
（来校した際の親同士の交流はもちろん、子ども同士もうれしそうに紹介し合うという）

親がプラス思考になれる「やったー!カレンダー」への記入

お気軽にご相談ください！
・家庭教育学級や企業内家庭教育研修について
・家庭教育について

編集後記

○家庭にも消費者教育を！

「岐阜県消費者教育スモールステージ」事業は、来年も開催される予定です。楽しみながら学ぶステージについては、他の内容に変更される場合もありますが、学校と家庭、地域が連携して消費者教育を学ぶとても良い機会だと思います。

子どもたちのネット環境は、幼児や小学生がゲーム機器を使うときから、すぐそばに存在します。また、高校生にもなれば多くの子が、スマートフォンを使うようになってきます。トラブルに巻き込まれずに上手に使うためにも、日頃から家庭で話題にする中で、家庭ごとの約束を決めるなど必要になってきます。

ネットやケータイ、お金の使い方など、消費者教育に関するテーマについて、家庭教育学級でも取り入れ、それをきっかけにぜひ親子で話し合ってみてください。

お気軽にご相談ください！
家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます

岐阜教育事務所	☎058-278-3059（直通）
西濃教育事務所	☎0584-73-1111（411）
美濃教育事務所	☎0575-33-4011（437）
可茂教育事務所	☎0574-25-3111（440）
東濃教育事務所	☎0573-26-1111（369）
飛騨教育事務所	☎0577-33-1111（424）

県のホームページで家庭教育学級の多くの事例を紹介しています！
ぜひご覧ください！！
岐阜県　家庭教育学級　検索

平成24年度家庭教育学級の取り組み紹介（ほか、23年度版や家庭教育学級運営マニュアルも掲載していますのでご活用ください!）

岐阜県立岐阜聾学校

所在地＝岐阜市加納西丸町1－74

【岐阜県立岐阜聾学校】

1 学校の特色

岐阜県立岐阜聾学校は、昭和六年に聴覚に障がいを有する児童生徒が学ぶ県内唯一の聾学校として設立され、平成二十三年に創立八十周年を迎えた伝統のある学校です。現在では、幼稚部も設置され、小学部、中学部、高等部の四部があり、合わせて九十三名の幼児児童生徒が在籍しています。

本校では、『一人一人の可能性を最大限に伸長し、自立と社会参加ができるよう「生きる力」を育む』ことを教育目標に掲げ、様々な教育活動に取り組んでいます。

多様なコミュニケーション手段を用い、基礎的・基本的な知識の定着や技術等の向上を図るために、教科学習だけではなく、地域に根ざした学校として、近隣の小・中学校や地域住民との交流を教育活動に位置付け、積極的な交流をすすめています。また、部活動にも力を入れ、各種大会において良い成果を収め、自己実現の場にもなっています。

2 防災教育

昨年度より、県の指定を受けて防災教育推進活動に取り組んでいます。昨年度は、災害時に必要な知識を得る活動を中心に行いました。講演会を二回実施し、東日本大震災でのボランティア活動を通しての体験談や、災害に遭われた方の体験談等を伺い、災害時に如何に身を守るかについて学びました。

今年度は体験を取り入れた活動も実施しました。映像作家の今村彩子氏をお招きして、東日本大震災の映像を拝見することで災害の恐ろしさを再認識し、聴覚障がい者にとって日頃から地域でのコミュニケーションを大切にすることや、災害にあった時の対応の方法等を学ぶことができました。十二月には防災士の方より、災害時に役立つ避難のポイントを、体験を交えた講演会として実施しました。小・中学部の児童生徒は、県の広域防災センターに校外学習に出かけ、災害の恐ろしさを体験して、「自分の命は自分で守る」ために大切なことを学びました。

また、聴覚障がい者への災害時の支援を得るためのポスターやチラシを作成し、理解啓発のために幼児児童生徒の居住地域の福祉課や、通学時に利用する駅等に配布しました。

▲聴覚障がい者理解啓発チラシ

3 就業体験の取組

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育て、キャリア発達を促すために、中学部から高等部まで系統的な就業体験を実施しています。卒業後の社会人としての生活や意識の変容、学校から社会への移行をめぐる様々な課題、そして、何よりも望ましい勤労観、職業観を育むために、就業体験の取組は生徒の成長とともに意義を深めています。

また、社会的に、障がい者雇用が注目される中、多くの企業は、聴覚障がいを有する生徒の実態が分からず、雇用を見送っている現状です。そうした中、就業体験において自らが開拓者となり、体験先の企業に理解をしていただき雇用に結び付くケースもあります。学校で培った力（知識・技能・態度等）を出し切りながら、精一杯取り組んでいます。

▲就業体験でコンピューター解体作業に取り組む本校生徒

4 部活動の取組

本校の部活動は、中学部一年生から高等部専攻科までの生徒全員が、「陸上競技部」「バレーボール部」「卓球部」「芸術部」「太鼓部」の各部に所属し、放課後を中心に活動し、各種大会や発表会等に積極的に参加しています。

今年度の男子バレーボール部は、中学部生徒が六名になり、一般中学校が参加する大会に、初めて参加することができました。

七月の中体連岐阜市大会では、日頃の練習の成果を発揮して、五位という成績を残すことができました。

▲岐阜地区大会でスパイクを打つ本校生徒

5 幼稚部の紹介

岐阜県内の特別支援学校で、幼稚部が設置されているのは岐阜聾学校だけです。現在、三歳児三名、四歳児九名、五歳児一名の計十三名が毎日元気に通学しています。子どもたちは、先生や友達といろいろな運動遊びや創作遊び、季節の行事、学校行事に楽しんで取り組む中で、人の言葉を理解しようとする力や自分の思いを伝えようとする力等をつけています。

6 「きこえとことばの支援センター」の紹介

聴覚障がいは、新生児聴覚スクリーニング検査により生まれてすぐに発見され、一歳前から療育を始めることができるようになりました。本校の乳幼児教室では、現在、生後八か月から就学前の五歳児までの乳幼児二十三名の指導とその保護者の支援を行っています。

また、地域で学ぶ聴覚に障がいを有する児童生徒については、在籍する学校の依頼を受け、担当者が、その学校へ出向き、授業参観、先生や保護者との懇談、クラスの友達への障がいに関する理解啓発授業、先生方への聴覚障がいに関する研修会等を行い、聴覚に障がいを有する児童生徒の学校生活を応援しています。

7 PTA活動の紹介

PTA役員を中心に保護者の方のご理解とご協力をいただきながら、活動を展開しています。その一部を紹介いたします。

PTA執行部が担当して「校長先生と語る会」を実施しました。保護者が普段疑問に思っておられることや改善してほしいことについて、事前のアンケートを元に語り合い、制服や就職に関すること、トイレ擬音装置や赤色ランプの設置のこと、携帯やスマホのトラブルの実態等について意見が出され、学校として検討したり改善に向けて取り組んだりすることになりました。

他にも研修委員会では「企業見学会」、厚生委員会では「ベルマーク収集」、体育委員会では「救命救急法」、文化委員会では「岐聾祭（学校祭）での食品・物品バザー」等、各種の行事を計画し、活発な活動を展開しています。

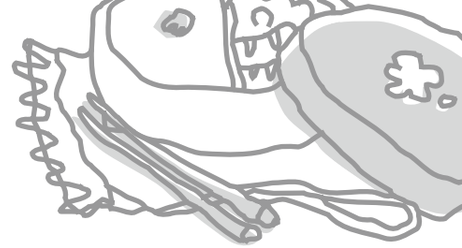
▲救命救急法講習会で心肺蘇生法を体験する保護者

8 PTA会長の声

本校PTA活動の一つであるウィークエンドサークル活動は、今年も日帰りバス旅行・ボウリング大会・料理教室を行いました。どの活動にも幼稚部の幼児から高等部の生徒まで大勢が参加し、楽しく活動しています。

また、年に一度の「岐聾祭（学校祭）」では、PTA主催の食品・物品バザーを行いました。保護者全員のご協力をいただき、盛況のもと、二日間無事に終えることができました。PTA活動にご協力いただいていることに感謝しております。

お弁当の日



瑞穂市立西小学校PTA

おべんとうの日

西小学校ＰＴＡでは、「豊かな心をもち、たくましく生きる力のある子を育てる」を行動目標にかかげ、本部と六つの専門員会が協力し合って多くの活動に取り組んでいます。その一環として、西小食育大作戦を実施しています。

本年度は、六月二日（日）の家族参観日に「お弁当の日」として、実施しました。この活動のねらいは、

①献立の相談をしたり、親子でともに調理をしたりすることにより親子のふれ合いの時間を増やす。

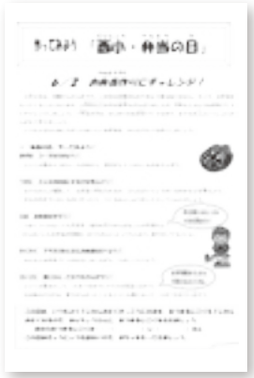
②調理方法を考えたり、食材についての知識を得たりすることにより、食への関心を深める。

③普段食事を作ってくれる親、食材の調達に関わる人々、食材そのものに対して感謝の心を育てる。

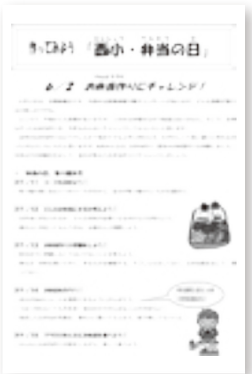
です。決して、お弁当を作ることができるようになること、調理技術を高めることや、出来ばえの善し悪しを競争するものではなく、私たちが生きていくうえで必要な「食」について親子で考えるきっかけにしたいと考えました。そのために、当日は、登校時間を一時間遅らせていただき親子でお弁当を作る時間を確保しました。また、一～六年生が取り組むため、その実態に合わせて次頁の四つのコースを設定しました。

お弁当の日　掲示　３年１組

お弁当の日　掲示　２年２組



弁当の日たより　低学年用



弁当の日たより　高学年用

食育大作戦案内　保護者用

保護者の感想

・普段の食事作りの時は、ゆとりもなくてお手伝いを断ってしまっていました。一緒に作れて楽しかった。これからは、時々計画を立てて一緒に作りたいです。
・去年より挑戦することが増えて、この先が楽しみです。小さな手で、大きなおにぎりができました。
・献立を考える、包丁を使う、フライパンで炒める、野菜の型抜きなど一年時より取り組む内容が増えました。
・「片付けまで一人で全てやりたい」と言ってほとんどできていたので、成長を感じました

取組表

ありがとうコース　お弁当を作ってくれたお家の人に「ありがとう」を伝えよう。

おにぎりコース　買い物に行こう。おかずをつめよう。おにぎりをにぎろう。

家族で弁当コース　お家の人と献立を考えよう。おかず（一品）とおにぎりを作ろう。お家の人と後片付けをしよう。

チャレンジコース　自分で献立を考えよう。おかずを自分で作ろう。お弁当を全部自分で作ろう。買い物から後片付けまで一人でやろう。

この取り組みを意欲的に行うために、取り組み表や児童向けのプリントも作成しました。その結果、「親子で献立を考え、一緒に作業して楽しい時間を過ごせた」「今度は家族のご飯を作ってあげたい」などの感想が寄せられました。先生方にも、自らお弁当作りに取り組んでいただけたことも保護者の皆さんにも大変好評でした。

夏休みには、これを受けて食育大作戦第二弾として夏休みに「家族のために食事を作ろう～たくさんのお手伝いをしよう～」に取り組みました。西小学校ＰＴＡの柱の一つになる活動です。

教室でのお弁当

芝生でのお弁当

school infirmary

保健室ノート

●揖斐川町立久瀬小学校養護教諭
遠藤 はるみ

食事は楽しい場所 そしてマナーを学ぶ場所

久瀬小学校は揖斐川の上流に位置し、周囲を山々に囲まれた自然豊かな環境の中にあり、全校児童数二十二名、複式学級のアットホームな小学校です。

本校の子どもたちは欠席、けがが少なく元気です。バス通学の児童が多いので、運動量を確保するため、休み時間は、サーキット運動、持久走、縄跳び、縦割り活動など、年間を通して体力づくりができるよう計画をたてており、子どもたちは外で元気に体を動かしています。また、運動会には、全校一輪車の種目があります。一年生は、上級生に教えてもらいながら毎日練習を重ね、運動会当日には、全校児童が息のあった素敵な姿を披露してくれました。

給食は食堂で全校一緒に食べています。小規模校のため、養護教諭が給食主任を兼ねており、給食の時間には月々の目標や食事のマナーについて子どもたちに話をしています。素直な子どもたちばかりで、話をすればその場ですぐに改めようとする姿が見られ、ほほえましくなります。また、茶碗に残っているご飯の粒を、最後の一粒まで、丁寧にとって食べている子を見ていると、「食べ物の大切さや感謝の気持ちを教えてもらっているんだな」と家庭の食卓の様子を伺うこともできます。しかし、いろいろ気になる姿も見えてきます。背中が丸くなっている子、食器を持たないで食べる子、苦手な物になかなか箸をつけられない子、口の中に食べ物を入れたまま話をする子など…。

食事にはいろいろなマナーや作法があります。食堂には、「食事のマナー　10の約束」が掲げられています。さて、どのくらい身に付いているでしょうか。

①食前食後には感謝の気持ちをこめて手を合わせる。
②口に物を入れたまま話さない。
③声の大きさに気を付ける。
④背筋を伸ばして食べる。
⑤ばっかり食べをしない。
⑥口を閉じよく噛んで食べる。
⑦食器・箸は正しく並べる。
⑧箸を正しく持って食べる。
⑨食卓に肘をついて食べない。
⑩茶碗・汁椀などを正しく持って食べる。

昨年度から、県内の小学校六年生全員が『家庭の食育マイスター』に委嘱されています。これは、児童自らが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることを自覚できるようにするとともに、児童が家庭において食育を話題にすることにより、児童を中心とした家庭内の食育を推進するために設けられている活動です。本校でも、栄養職員の指導により、バランスのとれた食事の基本である「主食・主菜・副菜」を学び、「バランスのよいメニュー」「モーニング、栄養満点！」など各自がそれぞれテーマを決めて朝食メニューを考え、調理実習を行いました。今後は、家庭での食事作りの中で、児童が中心となって食についての話題を提供してほしいと思っています。

食卓は、家族の大切なコミュニケーションの場でもあると思います。「食べている時間は、テレビを消す。」「一緒に食べられなくても大人は同じテーブルに座り、子どもの話を聞いてあげる。」「食卓では小言や成績の話はしない。」などのちょっとした工夫も必要なのではないでしょうか。家族の食卓は、「食べることは楽しい」と実感できる団らんの場であってほしいものです。

久瀬の子どもたちは明るく素直です。いつまでもそんな子どもたちでいてほしいと思います。子どもたちが健康で元気に過ごせるように、養護教諭としていろいろな角度から支援していきたいです。

pleasure

イラスト&クイズ

PN. AYAKI（岐阜市）

市川瑞稀（恵那市）

QUESTION-1

ポスターの「ろうかを走るな」って何語？

出題・廣瀬茉莉（本巣市）

〈答えは41ページ〉

子どもが父親のすごさを感じる場

美濃市立牧谷小学校ＰＴＡ

本校は、平成二十一年度に美濃市の学校再編成によって新しくできた学校です。近くを清流板取川が流れ、まわりを山に囲まれた自然豊かな環境の中にあります。

本校ＰＴＡには、父親のみで組織した委員会は特にありませんが地区委員のほとんどは父親がなっています。この地区委員が主体となって運営する行事に、毎年夏休み最後の日曜日に行う親子環境活動があります。八つの地区に、毎年ローテーションで作業内容が割り振られます。六月の資源回収の折に、地区委員が担当場所と作業内容の確認を行い、必要な道具等の段取りを決めます。作業場所には、父親パワーが不可欠なところがいっぱいあります。生垣の剪定、伐採した樹木の片付け、斜面での草刈り、そして側溝のふたの取り外しなど母親や児童ではむずかしいところを父親どうし声をかけあって、てきぱきと行っています。高学年の児童は自分の地区での作業のため、父親の作業する姿を目の当たりにして、そのすごさを改めて感じている子もいます。また、作業を行いながら父親が地域の子どもたちに声をかけることで親近感も高まっています。

この活動は年に二回ですが、父親のすごさを児童が実感できる場としてとてもよいものになっています。

主張する父親の背中

美濃市立藍見小学校ＰＴＡ

美濃市の西部、藍見地区は住民同士の交流も盛んで、自然にも恵まれ、子どもの成長にとっては非常によい環境が整っています。ここに位置する藍見小学校では、父親が中心となって行う活動等はありませんが、夏休み中の学校環境整備活動、年二回の資源回収、運動会の準備と片付けにおいては、有余るパワーを思う存分発揮しています。

昨年の夏は異常なまでの猛暑で、そんな中で行われる環境整備活動は、例年にはない校庭にタイヤを埋める作業が追加されており、熱中症が心配されました。どうしても男手が必要なため声をかけたところ、快く集まってくれたオヤジたちの背中は、やる気で満ち溢れていました。そして、たくましく見えたのは見掛けだけではなく、全部は無理だろうと思っていた用意したタイヤのすべてが、予定時間内に埋められました。恐るべし、藍見オヤジ軍団！

子ども達は、普段なかなか見る事のできない父親の活躍ぶりを、一緒に汗を流しながら見て、その存在を再認識すると共に、さらに絆が深まったと思います。

親父パワー

美濃市立中有知小学校ＰＴＡ

中有知小学校ＰＴＡでは、現在父親達を中心とした組織はなく、特別に中心となって行っている活動もありません。ですが、ＰＴＡ事業として行っている年三回の資源別回収や子ども達が気持ちよく新学期が迎えられるようにと願って夏休みの後半に行われる奉仕作業には、たくさんのお父さん達の姿が見られます。

本年度の奉仕作業の当日は、生憎の雨。当然ながら当初に予定されていた外での作業は中止に…という運びでしたが、学校周囲の側溝は、グランドからの砂や土で埋め尽くされ限界がきていました。急遽予定変更！外での作業開始の声にここぞとばかりにお父さん方！スコップ片手にそれぞれの持ち場へと急ぎます。足は泥だらけになり、上半身はずぶ濡れになりながらも淡々と作業をこなす親父達の姿をそこに見ました。

ＰＴＡ活動の中では普段華々しく脚光を浴びることも少ない父親達ですが、雨の中のその姿は一際輝いていました。

父親との絆！ＰＴＡ活動への積極的な参加

美濃市立昭和中学校ＰＴＡ

私たちの昭和中学校ＰＴＡは、藍見地区と大矢田地区の保護者から成り立っています。父親のみの組織や活動はありませんが、年二回の資源回収や夏休みに行う「親子で学校を美しくする会」という奉仕作業に、多くのお父さんが参加して頑張っています。

資源回収では、お父さん方が率先して資源の回収にまわり、自分の地区のみならず、他地区の資源の荷降ろしも積極的に行っています。今年度は雨天で中止となってしまいましたが、例年、「学校を美しくする会」にお父さん方が多く参加しています。校舎に向かう坂道、運動場周辺、校舎内の三つの場所を分担して、生徒と保護者とが一緒になって清掃活動を行っています。日頃、父親と触れ合う機会が少ない生徒たちにとって、一生懸命働くお父さんの姿を間近に見ながら共に汗を流すことは、とても大切なことだと思います。

その他に、二年前、校舎南側の鬱蒼と生い茂った雑木林を、父親や地域の方々が中心となって伐採しました。そのおかげで、学校菜園が見事に蘇り、今までほとんど収穫できなかった野菜や果物などを収穫することができるようになりました。

また、今年度、昨年度までに比べて、参観日にお父さんの姿が多く見られるようになってきました。お父さん方の教育への関心の高さ、さらには我が子の学習の様子や成長を見届けたいという願いがそこに現れているように思います。

このように、お父さん方のＰＴＡ活動への関心の高さが、学校とＰＴＡとの協力体制や活動の深まりにつながっていくと思います。今後もこうしたうれしい姿が継承されていくことを期待しています。

力を合わせ汗を流した資源回収

父親とのふれ合い「学校を美しくする会」

保護者、地域の協力「伐採作業」

私にとっての魔法の言葉

可児市立蘇南中学校　教諭
西浦　いづみ

私は、学生時代から今に至るまでたくさんの素晴らしい先生方に出逢いました。学生時代には、自分の生き方に影響を与えて下さった先生。教員になってからは、教師という仕事について、そして、あんなふうに指導がしたいとあこがれる先生方に出逢い、本当にたくさんの方々に支えられて生きているんだと実感しています。そんな中で、私の心がドキッとした先生の言葉が二つあります。その言葉は、今でも私の励みになり、辛いことや嫌なことがあると思い出します。

一つ目は、中学校の国語の先生の一言でした。国語の授業の中で、先生に音読を指名されました。嫌だなと思いながら音読をしたのを覚えています。しかし、音読が終わってからその先生が、「大きな声で、音読ができて上手。」とクラス全員の前で、私のことを褒めて下さいました。思わぬ一言に驚いたのと同時に、とても嬉しかったことを覚えています。今までは、家で、音読なんてしたことがなかったのに、また先生に褒められたいという思いが芽生え、習っているところの教科書を音読したり、図書館で借りてきた本を音読したりしていました。あんなに苦手だった音読もだんだん声に出して読むことが楽しくなっていき、国語の音読の場面になると、進んで手を挙げるようになりました。

その先生の最後の授業のプリントには、私に対して、「あなたは、音読をするのが上手ですよ。将来は、その才能を生かした仕事に就くことも考えてみるといいですよ。」と励ましのメッセージが書いてありました。人の前で話すことや発表することが苦手だった私が、こんなに変わることができたのもこの先生のお陰だと思います。先生の一言でまるで魔法にかかったように自分が変われることが分かりました。そんな自分の意外な一面を引き出して下さった先生にとても感謝をしています。

二つ目は、高校の卒業式で校長先生が話された言葉です。これから始まる大学生活に期待と不安を胸にしていた時のことです。今まで共に過ごしてきた仲間と離れ離れになることや教師になりたいという夢を叶えるために頑張ろうと思っていた私を、後押ししてくれる言葉だったことを覚えています。後からその言葉が気になって調べました。それは、フランクル心理学によるもので、「この人生のどこかにあなたを必要とする『何か』があり、あなたを必要とする『誰か』がいる。そして、その『何か』や『誰か』は、あなたに発見されるのを待っている。」という言葉でした。校長先生がおっしゃった言葉を自分に当てはめてみると、「自分の夢を叶えるために、これから出逢うたくさんの子どもたちの誰かが私を必要としてくれる。そして、頼ってくれる。その誰かを私が見つけ、一緒になって頑張ったり、時には、励ましたり、支えたりしていくことが私のめざす教師という姿なんだ。」と考えることができました。今でもこの言葉は、自分が落ち込んでいるときやこれからあるべき姿を考えるときに励ます言葉になり、私に力を与えてくれます。

教師の一言には、とても影響力があり、まるで魔法にかかったように、がむしゃらに頑張ることができたり、嫌なことや辛いことにもチャレンジできたりする力があると思います。これから出逢う子どもたちの中で、私のように、「先生のあの言葉で、自分はこんなふうに頑張れることができた。変われることができた」。と思ってくれる子がいたら、「教師をしていて本当によかったな。幸せだな。」と思います。だから、私も子どもたちに夢や希望を与えられる教師をめざしてこれからも頑張り続けたいと思います。

子育て半生記

「根っこ」と「翼」

土岐市立泉中学校PTA会長　有我　直文

私が中学生の時、私の父親も泉中学校のPTA役員をしており、当時の私は、父親が学校と近い存在になることに対し、友人に対する気恥ずかしさと、学校での情報が父親に伝わってしまう事を子どもながらに危惧し、何故これだけの生徒がいる中で、自分の父親がPTA役員を引き受けなければならないのかと、父親を恨む気持ちになっていた事を思い出します。

時は経ち、私も一男をもうけ、その息子が泉中学校へ通うこととなると、あろうことか、この私にもPTA役員の話がきました。それまで子育ては妻に任せっきりであり、子どもの授業参観にも参加していない状況であったにもかかわらず（そのような状況であったからかもしれませんが…）、地域的な役員決めの方針に逆らうこともできず、父親と同じようにPTA役員を引き受け、同じように息子からも恨まれることとなりました。

そして、PTA役員も二年目を迎え、私もPTA会長という大役を仰せつかり活動する中で、前例主義である現在のPTA活動に疑問を持ち始めました。

かの有名な経営の神様と言われるドラッカーも「既存のものはすべて陳腐化すると仮定する。」と言っているように、当時、その方法が最善の方法であったとしても、時代により、合わなくなってしまう事は、私達の身の周りに幾らでもあります。そうでありながら、前例主義を繰り返すのは、本来のPTA活動の原点を置き去りにし、PTA活動の効率化のみに重点を置いてしまっているからではないでしょうか。「PTAとは何か、何であるべきか」を中心に考え、子ども達にとってより良い学校環境を提供することを考えながらPTA活動を行っていかないと、本来の目的とかけ離れてしまっていることが多々あることに気づき始めました。

このように知らず知らずのうちに、本来の原点から離れてしまっていることは、私達の子育ての中にもあるように感じます。子どもが産まれてきた時に願っていた思いと、現在の子どもに対する気持ちは、果たして一致しているでしょうか。子育てで大切な原点を蔑ろにし、子どもの外面的情報のみに目を奪われ、自分の理想の子ども像を押し付け、最終的には「貴方のためだから」と大人達の敷いたレールの上を歩かせようとしている。私自身も、子どもの強みを活かさせようとせず、自分の価値観を押し付け、子どもの主体性を奪ってしまっていたような気がします。

人はそれぞれ産まれてきたのには意味があると思います。子どもの幸せを中心に考え、その子どもの特有の強みを活かし、社会で果たすべき貢献を自分自身で探させ、何故産まれてきたのかを気づかせる事が私達親の責任ではないでしょうか。

スティーブン・Rコヴィの大ベストセラーの中に子どもに相続できるもので、永遠の価値をもつのはふたつしかない。「ルーツと翼である」との一節があります。世代を超えて強い絆で結ばれた家族というものには素晴らしい力があり、自分の先祖、根っこを知ることが大切で、過去から現在の自分に繋がる人々に感謝することです。そして、子どもに翼を与えるということは、今まで引き継いできた悪い脚本を乗り越える力を与え、流れを変える人になることです。つくり出されたその変化は、将来にわたって数多くの人に大きな影響を与えると思います。

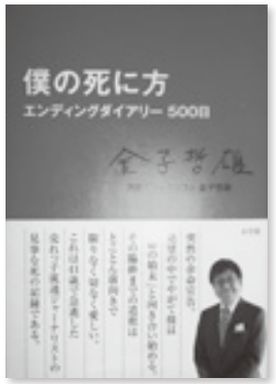
今考えれば、父親と同じように引き受けたPTA役員も一つのルーツであり、子どもに良い影響、変化を与えるきっかけであったのかも知れません。

私が出会った1冊の本【続16】

僕の死に方
～エンディングダイアリー500日～

金子哲雄　著　小学館

下呂市立中原小学校ＰＴＡ　犬塚　幸子



「テレビに出てたあの人亡くなったって」「へえ。見ないと思った」。そんな会話が職場で交わされた後、私は本屋で偶然この本を見付けました。「驚き」「感動」「悲しみ」「幸せ」といろいろ感じながら一気に読みました。

流通ジャーナリストである著者は、余命宣告を受け、「命の始末」として自分と残される者のために、自らの葬儀やその後をプロデュースします。その未曾有の発想に、まずは驚きと強さを感じます。著者はおそらく素直な人。思い付いたら行動に移してしまう人なのでしょう。逝去する一ヶ月前より執筆とされていますが、本からはエネルギーが溢れています。ある意味、私も似たような一面があるからなのか、隣に座って話を聞いている感じ。もっと話したい、もっと知ってほしい気持ちが伝わってきます。最後は文章にも力が無くなってきますが、満たされた温かさが伝わってくるのです。

本の中で著者は、自らの破天荒な経歴について綴っています。魅力的で面白く、食い入るように読みました。「人を喜ばせたい」が彼のコンセプトであり、幾度か語られます。その為なら苦を苦としない貫かれた姿に感動します。人の役に立つための情報を提供することを生涯の仕事としていますが、今回についても医療現場の現状や発見、問題点を数々掲げています。患者の当事者にしか分からない部分も克明に書かれており、生きている限り「生涯現役」で活躍していたいという彼の熱意を感じられずにはいられません。

また、夫婦の深い愛情にも心を打たれます。延命の願いを持ちつつも夫の考えを理解尊重し、共に死を受け入れ、出来る限りのサポートをしてきた妻から、夫である著者への想いと死への経過があとがきにて語られています。「わかりあう」事につき、改めて考えました。

四十一歳での死。「若くして…」と気の毒なイメージばかりがありましたが、若いから成せた「僕の死に方」です。亡くなる場面は読む側も涙が止まりませんが、それでも著者が多くの人と出会えた事、感謝する心を持っている事、努力あっての事ですが、死に際に自分を理解してくれる人がこんなにもいる事は幸せな事です。こう私が感じるのは著者の狙い通り。著者は闘病の辛い体験よりも、感謝や幸せなどをメッセージとして伝えたかったようです。

「亡くなる前にもっとこの人を知って、生きている姿を見たかった」が一番強く思った事です。

あとがきにある「今を全力で生きる」という言葉が心に残っています。明日がある、未来があると疑う事のない私たちです。でも、忘れてはいけない事があります。この本は、そんな事に気付かせてくれます。どうぞ、一度読んでみてください。

葉っぱのフレディ
～いのちの旅～

レオ・バスカーリア　著　童話屋

岐阜市立東長良中学校ＰＴＡ会長　森　康次

私が最初この本の物語を目にしたのは中学校の英語の教科書でした。中三英語（義務教育英語）の最後に取り扱う英文だけあって、とても読み応えがあり、またこれからの生き方や人生観、生命について考えさせられる物語でした。たまたま立ち寄った書店で日本語訳された同書を見つけ購入しました。それには教科書に記載しきれなかった物語や、美しい写真と水彩の挿絵があり、また一段とこの物語のファンとなりました。

ここで、この著書を紹介させて頂きます。著者のレオ・バスカーリアは作家ではなく、アメリカの著名な哲学者です。また、同書は著者にとって生涯でただ一冊の絵本です。冒頭には読者の皆さんへ編集者がこんなメッセージを贈っています。

「この絵本を自分の力で『考える』ことをはじめた子どもたちと子どもの心をもった大人たちに送ります。（中略）生きるとはどういうことだろう。死とは何だろう。人は生きているかぎりこうした問いをつづけます。」

物語はフレディの葉としての人生を通して生命の在り方、親友のダニエルとの会話から人生観を感じ取ることができます。

ダニエルがフレディの問いに次のように答えています。「まだ経験したことがないことはこわいと思うものだ。でも考えてごらん。世界は変化し続けているんだ。変化しないものはひとつもないんだよ。」変化の普遍性、生命の連続性を語る場面は考えさせられました。

テーマは難しいものではありますが、これから新しい一歩を踏み出そうとしている若い世代の方に是非お勧めです。また、これから人生を築き上げていくお子さんをお持ちの保護者の方にも、参考になる考え方がいくつか見つかるのではと思います。さらに、私たち大人を含めて、これからの人生において生き方の考え方のヒントが見つかるかもしれません。

pleasure

イラスト&クイズ

P.N. N. S（関市）

P.N. 気分（岐阜市）

QUESTION -2

89歳の人がやるスポーツは？

出題・安田那緒（多治見市）

〈答えは41ページ〉

子の思い

楽しかったお祭り

海津市立石津小学校　三年　水谷　真子

十月に、太田地区で四十年近く前から続く秋祭りがありました。

太田地区には、五つの部落があり、それぞれにはっぴの色があります。私の地区は、赤色です。お母さんが、小学生の時に着た物です。だからお母さんの名前や、お母さんの姉の名前が書いてあり、その横に私の名前もあります。それを見るとなんだか、うれしくなります。

お祭りの朝八時に宿に集まり、杉生神社へ行きます。今年は、お父さんもついてくれました。おみこしと、おししのおはらいを受けに行きます。杉生神社には、太田地区すべてが集まるので、はっぴを着た子がたくさん集まり、いろとりどりで、きれいで楽しいです。

おはらいを受けた後は、「わっしょい、わっしょい」と大きな声をかけて家をたずねます。お兄ちゃんは、声が大きくたのもしいです。おししの口に、きふを入れてもらいます。だからおししの頭の部分をするのが人気です。わたしもやりました。頭が大きく、重たくてつかれましたが、口の所から、見るのが楽しかったです。

宿に帰ると、部落の人の手作りのごはんを食べます。お赤飯・ちらしずし・まぜごはんなど、いっしょにごはんが食べられてうれしかったです。

来年も、大きな声を出して、お祭りを楽しみたいです。

自分の気持ちを伝える

岐阜市立厚見小学校　六年　島辺　琴葉

私は昔から、自分の気持ちを人に伝えることが苦手でした。いやなのに「いや」と言えないし、悲しくて、つらくて、泣きたいのに泣けないような人でした。でも、性格は明るくて、友だちもいました。それに、友達が大好きでした。学年が上がるたびに新しい友達ができて、とても楽しいと思っていました。

でも、四年生になって、仲間外れにされたり、にらまれたり、いやがらせを受けたりするようになりました。とてもいやでしたが、気持ちを伝えることの苦手な私は、「いや」の一言も言えないし、泣くこともできなかったので、マイナス思考ではなくて、プラス思考になろうと思いました。すると少しだけ楽になったような気がしました。

六年生は、私の『感情を伝えるのが苦手』という性格が自分の中で目立ってしまいました。友達がからかわれているのに、守れない。その上、いっしょにからかってしまうこともありました。

でも、ある日、六年生のみんなで『相手の心を傷つけてしまう』ということをテーマに話し合いをしました。私はこれを「チャンスだ」と思いました。この話し合いでは、みんなが自分の気持ちを発表していたので、私も自然に話すことができました。だから、今までのどまでつまっていて言えなかったことを、たくさん言いました。久しぶりに泣きました。今まで友達をからかってしまっていたことは、本人の目の前で謝ることができました。

今までずっと表に出せなかった『感情』。私にとって、むずかしいことと思っていたけれど、みんなの前で思いきって話したことで、それほどでもないことに気付きました。

いつも、みんなの前で感情を出すのは無理だけど、一人一人にはそっと伝えることができるようになりました。

卒業まであとわずか。小学校生活を楽しむためにも、はずかしいという気持ちを少しだけ忘れて、みんなの前で自分の感情を出せるように、たくさん発言していきたいと思います。

家族

高山市立宮中学校　一年　江田　夏未

「家族」ってなんだかめんどうくさい…。」

私はそう思う。いっしょにご飯を食べたり、寝たり、時にはケンカをしたり、怒られたりもする。一日のほとんどを家族といる。私がいまからやろう!って思っている事を先に言われてやる気をなくす。しつこく言われて家族を「うざい」と思う。なにかがあった時には家族から八つ当たりされる。いらない事に首をつっこんでくる。ささいな事でもすぐに怒られる。そんな家族だからめんどくさい。

でも、もしかしたらめんどくさいと思える事が幸せなのかもしれない。いっしょに笑い合えたり、ご飯を食べる、寝る、そういうあたり前の事をあたり前に出来ているから気づかないだけで本当は家族って大事だ。家族だから言えることもあるし、家族だから楽しい、家族だから気をつかわないでいられる。もし、私が一人暮らしをしたら、朝は起きれないしご飯も自分で作って洗い物をして、洗たくをして干す。それからお金もかせいでいかなければならない。そうやって考えると家族って大事だ。人は支え合って生きていくけど支える人はほとんど家族だ。だから、だれか一人でも欠けたら悲しいし、逆に増えたらうれしい。私の家には愛犬がいる。愛犬でも私の家族。支え合って生きている。例えば犬のえさやりや散歩は私がやっているけど、私が落ち込んでいる時や悲しんでいる時にはそばにいてなぐさめてくれる。家族は素敵。

東日本大震災では多くの家族が離ればなれになった。家族が行方不明で今孤独になって生きている人もいるし、家族がもう戻ってこなかったりもする。だから、こうして今私達は一人も欠ける事なくあたりまえに生活できている事は幸せだと思うし、だからこそ今を大切に生きていきたい。

「家族」ってなんだかめんどくさい…、そう思うことができるから家族は特別だし、大事なんだなーと思う。

親の願い

子育ては自分育て

垂井町立府中小学校PTA　近藤　純子

「早くしなさい。もー、何回言ったら分かるの!」我が家の毎朝の光景だ。怒った声で注意したところで、反抗期を迎えた我が子に効き目はない。それどころか母親の私をイライラさせるかのように、さっきより余計に動作がおそくなる。「遅刻しても知らないからね。」と言い放ってみたものの、子どものことを放っておけない気持ちと葛藤し、子どもが遅刻しないように色々と手を出してしまう。

子どもが家を出た後、「ふーっ」とため息をつく。明日こそガミガミ言わないお母さんを目指し、心を落ち着けて子どもと向き合おうと誓う。しかし現実は、同じことの繰り返し。子どもには、出来なかった事に対して厳しく注意するのに、自分には甘く、反省の色なく毎日同じ対応をとってしまう。反抗期は子どもの成長にとって必要なものと頭では分かっていても、子どもの態度にイラッとくる自分を押さえきれないでいる。

「小さい頃は、私の言うことをよく聞いてくれてかわいかったのになぁ。」、と懐かしんでいたら、昔のある場面を思い出した。長男を連れ、長女を抱っこし、次女をカートに乗せてスーパーで買い物をしている時だった。見知らぬ年上の女性に、「お母さん、毎日忙しいでしょう。でもね、今が一番いい時よ。」と声をかけられた。その言葉の意味がよく分からなかった私は、思わず、「こんなバタバタしている毎日が一番いいのですか？」と聞き返してしまった。今の私だったら、「そうですね。」と共感していただろう。私がトイレに入り、姿が見えなくなっただけで泣き出していたあの頃。クリスマスにワーワー言いながら子ども達とケーキを作り、ケーキ屋さんのものとは程遠い出来栄えにもかかわらず、喜んで食べてくれていたあの頃。「私」という存在だけで安心してくれていた。今、「私」の存在は子ども達にどう思われているのだろう。

「親の背を見て子は育つ」という言葉があるように、子どもは親の姿、有り様を実によく見ている。恥ずかしい態度をとっていないか自問してみた。言葉で言ってみても、子どもにはなかなか伝わらない。態度で示していこうとする時、今のままの私では心もとない。「子どもの至らないところを注意する前に、自分の良くないところを改善していかなくては」と強く思った。親の姿が子どもの姿になると思うと、体に緊張感が走った。

保育園に通っていた時、七夕の短冊につたない字で書いてくれた願いごと、「おかあさんのようになりたいです。」いつまでもそう思ってもらえるよう自分自身を磨いていきたい。

親の責任

山県市立大桑小学校ＰＴＡ
会長　岩田　均

自分も昔は子どもだったから、子どもの気持ちは分かるものと思っていました。しかし、大人になると子どもの時の気持ちよりも大人としての知識や経験を優先してしまい、本当の子どもの気持ちを理解できていないのではないかと感じています。

昔の時代は良かった、のんびりしていたし、電話も家にしかなかったから誰から掛かってきたか分かったし、ゲーム機もそんなにかったから外で鬼ごっこや縄跳びなんかで遊んでいました。今の子は機械に囲まれて、直に会って話したり、触れ合ったりする機会が少なくなってきていて、それゆえ問題になることも多いのではという気持ちにもなります。

けれども、やはり人の本質は変わってないはずです。ただその時代の環境が変化しているだけ。その時代にあった対処の仕方は教えてあげなくてはならないが、本当に大切なことは変わってないはずだと思います。

人間は必ず他の人とコミュニケーションをとって生きています。実際に相手に会って言葉や仕草などで自分の気持ちを表現し、また相手の話を聞き、その時々の何かを伝えていかなければなりません。もちろんコミュニケーションをとることが上手な子もいれば下手な子もいるのでしょうが、自分で考えたことをきちんと表現する力は親として教えてあげなくてはならないでしょう。

その第一はやはり挨拶ではないでしょうか。できるだけ大きな声で、明るく元気に挨拶できれば、まずは自分が気持ち良い。そして相手も気持ちが良い。それから次の話に繋げることがとてもスムーズになります。悪い話をする時でも、例えば相手を気遣う一言があれば、きっと真意は伝わるはずです。

自分が子どもだった時、親に言われたことを思い出してみると悲しいかな、昔のことだからどんな時にどんなことを言われたのか分からなくなってしまっています。もちろん、早く寝なさいや宿題したの、なんてことは当たり前に言われていただろうけど。

ただ一つだけ今になって痛切に分かること、それは自分が子どもだった時の親の気持ち。たぶん親から与えてもらった言葉や習慣、あるいは生き方の一つでも子どもに渡せるように。今は分かってくれなくても、またその次の子どもたちに繋がるように。

おもいやりと助け合い

大垣市立西中学校ＰＴＡ
会長　名倉　準市

我が家の双子の二男・三男は中学の卒業を迎え、義務教育を終えようとしている。また、今年、長男も成人式を済ませ新たな目標に向かって進んでいるところである。ふと、親としての責任を果たせているのか振り返りつつも、これからの子ども達の成長に期待を寄せている。

三人の子どもは、小学校時代から野球を続け、小学校の野球少年団では、私自身も指導者として一緒に活動してきた。そんな中で、教えている子ども達から生きるたくましさを教わった気がする。辛い練習に一生懸命に取り組むのはもちろんであるが、優しいコーチには上手に甘え、厳しいコーチにはうまく対応する。子ども達は相手を肌で感じたままに接してくる。

三年前の三月に東日本大震災が発生し、幼い子ども達を含め大勢の方々が犠牲になったのは記憶に新しいところである。辛い災害ではあったが、新聞・テレビでよく耳にしたのは、被災者を助けるためのボランティアの姿や人々が助け合ったり共に慰めあったりしている姿であった。人と人との絆を確かめ合い、日本人の良さを改めて確認できる機会でもあった。このように、災害をはじめ非常事態においてのおもいやりのある行動はよく目にする。

一方、日常生活を振り返ると、若者が高齢者に席を譲る姿を目にするとホッとする。しかし、電車やバスの中で携帯電話を平気でかけている姿を目にするのも現実である。良識とは何か、マナーとは何かと問いたくなってしまう。日本はこれから少子高齢化社会を迎えようとしている。高齢者は困っていることがあっても自分で何とかしようと考えている方が多いのではないかと思う。その背景には、以前は自分のことは自分でできたし、最近の若者の良識やマナーを見ていると困っていると言ってもしょうがないといったことが在りはしないだろうか。

今まで、小学校・中学校で児童・生徒と関わった中で、子ども達が先生はもちろんであるが、地域の方々に大変お世話になってきたことを痛切に感じている。これから、大人になり社会に出ていく子ども達には、今までお世話になってきた地域の方々にいろんな面で恩返しができる社会人になってもらいたいと思うとともに、子どもや高齢者等困っている人におもいやりの気持ちを持ち、いつでも助け合いの声をかけることができるそんな大人になってほしいと願っている。

教育の窓

子どもがのびるとき

中津川市立落合小学校
校長　伊藤　秀久

学校はおもしろいよ。休み時間は友達と遊べるよ。机も大きいよ。

国語で「し」と「も」と「つ」と「い」を勉強したよ。園やママに教えてもらって知っていたけど、担任の先生は優しく、しっかり教えてくれたよ。

「し」と「も」は園と一緒だったけど、

「つ」は上の線がちょっと短かったよ。

「い」は右の線がななめになっていたよ。そこが園で教えてくれたことと違っていたよ。

ママに話したら「よく考えるね」とほめてくれたよ。

入学して二週間の一年生の子どもの話です。この子どもの話を聞いて、なんとも素晴らしい子どもだなあと感心しましたが、しばらくして、「このお母さんにこの子あり」と思うようになりました。

この子どもが素晴らしいのは、自分が知っている字とのわずかな違いも見逃さない目です。知的好奇心や学習意欲がキラキラ光っているように感じます。

また、このお母さんの素晴らしさは、「声かけ（言葉かけ）」にあります。子どもは日々学んでいます。キラキラ光った「気付き」や「学び」を子どもが語ってくれたとき、この子のお母さんのように、「ママに話したら『よく考えるね』とほめてくれたよ。」と、上手に声かけができたら、子どもはどんなにか嬉しいかわかりません。子どもはますます先生の手元に注目し、発見したくなるに違いありません。

「学習意欲を伸ばす」、「考える力を育てる」等、子どもにやる気を出させることに、特効薬はなさそうです。

難しいことではなく、このお

大垣桜高校 まんが研究部

ひなまつりクイズ

逆さ言葉

わなのなわ
（罠の縄）

出題・木村龍一（各務原市）

母さんのような「声かけ」や「見届け」等、大人のちょっとした心遣いの積み重ねではないでしょうか。

常に子ども一人一人の言葉や姿に心を止め、折々に見せるキラキラと光った瞬間を見逃さず、認め励ますことができる職員集団・学校でありたいと思っています。

また、一年生の教室では毎朝、教師の読み聞かせで一日がスタートします。耳を澄ませ、教師の話に食い入るように集中している子どもの目は、キラキラと輝いています。素晴らしい一日の始まりが演出されていると感じます。

こうした子どもを取り巻く教育環境や学習環境にも力を入れていきたと思っています。「子どもがのびるとき」、なんとも素晴らしい瞬間ではないでしょうか。

地域とともに進める道徳教育

美濃市立大矢田小学校
教諭　澤田小百合

「一年間、絵手紙を教えてくださって、ありがとうございました。」「いいえ、こちらこそ。ありがとうね。」これは、最終のクラブ活動の時の児童と地域講師の方との微笑ましいやりとりです。このように、大矢田小学校は、地域の方が身近に感じられる学校です。

毎朝、「みちびこまいか」と書かれたオレンジ色のベストを着た「みちびき隊」の方を、通学路のあちらこちらで見かけます。子ども達の横断を見届けたり、「おはよう。」と温かい声をかけたりしてくださっています。学校まで付き添って来てくださる方もみえます。

クラブ活動では、地域講師の方が材料や道具の入った大荷物を持って、「絵手紙」「ゲートボール」を教えにきてくださいます。夏休み中は、サマーチャレンジという講座の先生にもなってくださいます。「水墨画」「折り紙」「イラスト」「俳句」などを一年生から六年生までの児童に丁寧に指導してくださいます。「地域の方に学ぶ会」は、子ども達が楽しみにしている大矢田小学校の名物行事です。シニアクラブの方を中心にした地域講師の方が「陶芸」「絵手紙」「紙飛行機」「水鉄砲」「リング・独楽回し」「竹馬」「フラワーアレンジメント」「小物作り」「俳句」「囲碁・将棋」「書」などを教えてくださいます。

このように、大矢田小学校は地域の方の応援をいただける学校です。せっかくの地域の応援や協力を、子ども達の心を耕す教育に生かしたいと考えたのが、大矢田小学校の道徳教育の出発点です。このような地域の方の力を、子ども達の心を耕す道徳教育に生かすことで、「郷土を愛する子」「優しい心をもった子」を育てたいと考えたのです。

先日、一年生は道徳の時間に「すてきがいっぱい」という資料で、「郷土愛」の心を学びました。「私たちの大矢田にも、優しい人がいっぱいいるよ。」と言う児童に、「どんな人?」と尋ねると、「みちびき隊の人。だって道路を渡してくれるんだよ。」「『地域の方に学ぶ会』の先生だよ。よく飛ぶ紙飛行機の作り方を教えてくれたよ。」などと口々に言い始めました。そこで、「どうして優しくしてくださるのだろうね?」と尋ねると、「きっと僕たちのことが、好きだからじゃないかなあ。」「大矢田小学校のみんなのために頑張ろうと思っているからじゃないかな。」と答えました。身近な所で、生き方のお手本を見られる大矢田の子ども達は、幸せだなあと思った瞬間でした。きっと、学校のために、郷土のために尽力してくださる地域の方は、児童の温かい思い出となるだけでなく、児童の生きる指針ともなることでしょう。

寒い朝が続いていますが、児童は元気よく登校しています。「おはようございます。」という元気な挨拶が、校舎に響いています。お昼には、友達のよさや頑張りを紹介する放送が聞こえてきます。地域の方の後押しを受けた大矢田小学校の道徳教育は、これからも続きます。

「ふるさと茶碗」によせて

多治見市立南ヶ丘中学校
校長　谷口　千鶴

「今日の給食、何時もより美味しい。」

そんな声が教室に響きます。本日は、年二回の「ふるさと茶碗」の日です。

多治見市は陶器の町です。「ふるさと茶碗の日」には、校区在住の陶芸家「小木曽教彦」氏の茶碗で給食を食べます。

育ち盛りの生徒たちの健康を考えた、バランスの良い食事。仲間と同じものを囲むことで、弾む会話。いつの間にか苦手なものでも食べられるようになること…給食の良さはいくつかあると思います。

このふるさと茶碗は、それだけでなく、陶器の町に生まれ育つ生徒たちに、「陶器の良さを感じ、陶器に誇りをもって欲しい。」「本物で食べる食事の美味しさを感じて欲しい。」そんな願いから、十数年続けられています。

この茶碗は、普段の食器に比べ、重みがあります。温かさが伝わります。手触りが違います。

そして、不思議なことに、この茶碗で食べると美味しさが違うのです。

何故なんでしょうか。

茶碗（陶器）は、丁寧に扱わないと割れたりします。同じように見えても、一つ一つ違いがあります。作者の思いが込められています。

また、この日は、PTAの母親委員を中心とするボランティアの方々が、茶碗の煮沸消毒を始めとする準備・後片付け等を行って下さいます。

合理的な世の中にあって、人の手がかけられた行事です。いわば、手間のかかる行事です。

しかし、この手間こそが大切なのです。それは、そこに、たくさんの時間がかけられているということです。言い換えれば、手間は愛情ともいえます。給食を作って下さる方の手間、当日の準備をして下さる方の手間、そして何より、手作りの陶器のもつ温かさ（作者の作品にかけられた手間）が、美味しさの秘密なのではないでしょうか。

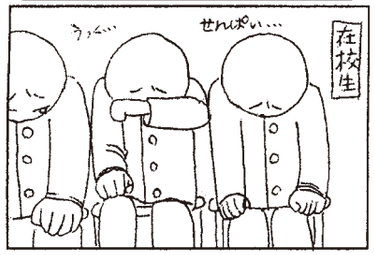
教育も同じです。人が育つには、手間＝愛情が必要です。この愛情は、そのために費やす時間の質的な多さに比例します。沢山の人の愛情（ここには地域の人々の思いも含まれています。）に包まれ、生徒たちは育っていきます。そして、生徒たちの根っこには、自分たちが生まれ育ってきた故郷の人々の思いが、染み付いています。たとえ、自覚していなくとも。

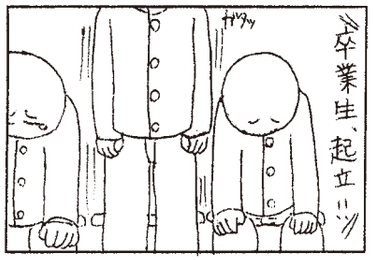
故郷への誇り、故郷を愛する心は、これからの人生で、生徒を支え、生徒を励まし続ける基盤の一つとなるものです。

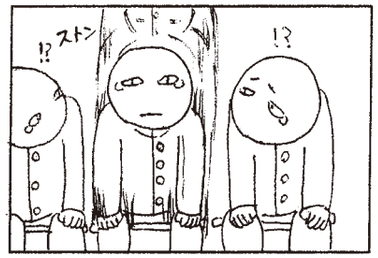
この日は、そんな教育の一端を担う大切な日なのです。

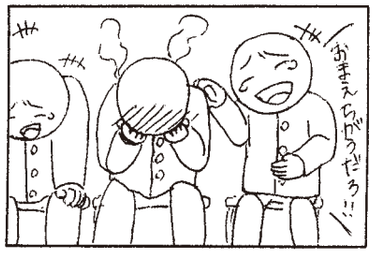
大垣桜高校 まんが研究部

卒業式









逆さ言葉

つまはまつ
（妻は待つ）

出題・大平望愛（海津市）

親子で はてな
3月号のクイズ

1月号クイズ答え

Q1 ③ ロシア（ソチ）

Q2 ア-2　イ-6

1月号のクイズ当選者

伊藤　聖菜（岐阜市）	澤　　翔太（郡上市）
木村　龍一（各務原市）	服部　珠奈（美濃加茂市）
太田小瑚路（各務原市）	柴田　渉斗（美濃加茂市）
中森由美子（瑞穂市）	戸田　美咲（可児市）
廣瀬　茉莉（本巣市）	安田　那緒（多治見市）
水谷　知花（大垣市）	後藤　優実（多治見市）
足立　芽生（関　市）	加藤　　真（土岐市）
川合　柾輝（関　市）	田口　誠也（中津川市）

応募方法

応募者は、はがきで、3月末までに下記の宛先へお送り下さい。
（1人1枚・当日消印有効）
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先　〒500−8824
岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入して下さい。

- ●3月号クイズの答え
- ●郵便番号・住所
  学校・学年・氏名
  保護者名
- ●『わが子のあゆみ』への感想・意見
- ●「なぞなぞ」の問題と答え
- ●逆さ言葉

Q1

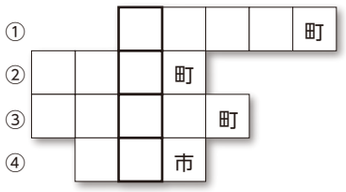
冬の寒さも少しは緩んでくる今日この頃、夜空を眺めてみませんか?北の星空はどのように動くのでしょうか??空を眺めて、観察してみましょう!

① 時計回り　② 右方向　③ 反時計回り

Q2

地図の①～④の市町村名を答えましょう。太字の箇所を上から読むと、春のキーワードが出てきます。

①揖斐川と長良川に囲まれた土地で、輪中や水屋で有名。
②かつては石炭の町として栄えた、中仙道の宿場町。
③美濃加茂市・可児市に接し、日本ライン下りでも有名。
④「和紙」「うだつのあがる町」として有名。



ヒント
春は○○○○。
春は夜明け前が一番美しいと・・・。
清少納言の文学にも出てきます。

★お試しクッキング★

菜の花とあさりのパスタ

菜の花は鮮やかな緑色と独特のほろ苦さが特徴の野菜で、春の訪れを感じさせてくれます。「苦み」は、春を告げる味と言われます。ビタミンやミネラル、食物繊維を多く含んだ緑黄色野菜で、栄養たっぷりの野菜です。

今回は、菜の花とあさりを使ったパスタを紹介します。菜の花は、苦みがあるため苦手とする子もいます。そこで、あさりの旨味で「こく」を出し、コンソメとバターの味で食べやすくし、お昼ごはんにおすすめの一品としました。

給食では、旬の食材を使うようにしています。家庭でも旬の食材を取り入れ、そのおいしさを家族で味わってください。

材料 4人分

- ・パスタ …… 320g（4束）
- ・ゆで塩 …… 適量
- ・菜の花 ……250g（1束）
- ・濃口しょうゆ… 小さじ1／2
- ・あさり …… 24個程度
- ・オリーブ油… 小さじ1／2
- ・にんにく …… 1かけ
- ・白ワイン …… 大さじ4
- ・水 …… 大さじ2
- ・コンソメ …… 小さじ1／2
- ・バター …… 30g
- ・塩 …… 少々

作り方

1. 菜の花はかためにゆで、3～4センチの長さに切り、濃口しょうゆをかけて下味をつけておく。
2. あさりは塩水で殻をこすり合わせて洗い、砂抜きをしておく。
3. にんにくは、みじんぎりにしておく。
4. たっぷりのお湯でパスタをかためにゆで、水気をきっておく。
5. フライパンにオリーブ油、にんにくを入れて弱火で炒め、香りを出す。あさりを入れ、白ワインと水を加えてふたをし、中火で蒸し焼きにする。
6. あさりの口が開いたらコンソメを入れ煮汁に溶かし、下味をつけた菜の花を軽く絞り入れる。ゆでたパスタとバターを入れ、塩で味を整える。

●栄養価（1人当り）

エネルギー	250kcal
たんぱく質	16.1g
脂質	8.7g
カルシウム	148mg
鉄	4.8mg
マグネシウム	113mg
亜鉛	2.1mg
ビタミンA	154μg
ビタミンB_1	0.19mg
ビタミンB_2	0.25mg
ビタミンC	82mg
食物繊維	3.2g
食塩相当量	2.1g

■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉・絵手紙・書写などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな?」の解答とともにお送りください。

宛先はいずれも 〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。 採用の分にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行（7・9・11・1・3月）されます。年度始め（4～5月）と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います（1冊200円、5冊1000円）。年度途中でも、1冊からお求めいただけます。ゆっくりご覧いただける個人購読をお勧めしています。学校又は県PTA事務局（☎058・262・3257）へお申込みください。

■1月号「中学生の自立度チェック」を読んで

じっくり読ませてもらいました。心配になった事、かえって安心した事など、中三の息子に当てはめながら見させてもらいました。「お試しクッキング」はもっと沢山のせてほしいです。 Tさん

いろいろなコーナーがありましたが「中学生の自立度をチェックする」が最も印象に残りました。我が家には小6、小2の子どもがいますが、つい先回りして言ったり、やったりしてしまう私がいます。2014は「先回りを1つでも少なくする!」のが私の目標です。 Aさん

興味深く読ませていただきました。わが子はまだ小学生ですが、はたして中学生になった時にはどのくらい出来ているのだろうと、考えながら…。全体的に見て、子どもの自立を親が邪魔している感もあり、私も反省した次第です。興味深い内容であり、子どもの意見も読んでみたいと思いました。読まさせていただき、有難うございました。 Nさん

三輪中学校「お弁当の日」の「べんと君」とってもかわいいです。着ぐるみも創ってしまうなんて、ステキなＰＴＡ役員の方々ですね。子ども達も、お弁当づくり楽しそうですね。 Mさん

同じ年齢くらいの子や、先生、親の考え方や想いが具体例を踏まえて書かれているので、自分の生活に取り入れやすい。 Hさん

「私が出会った一冊の本」の紹介をとても楽しみにしています。 Yさん

大垣桜高校まんが研究部の４コマまんががとてもおもしろいです。逆さ言葉、ＱＵＥＳＴＩＯＮも好きです。 Mさん

とても良い記事が載っていて参考になりますが、なかなか実行できませんのが残念です。努力したいと思います。 Sさん

■編集後記

東日本大震災から3年が経ちました。いつもと違う地震の揺れに、思わずテレビのスイッチを入れたあの日の事を、生々しく思い出します。「水位が何センチ上がった」と直後の報道が、40分後には、どす黒い大津波が総てを飲み込んでゆく映像に変わりました。福島県の原発のことは、その後に報道されました。2年後、岐阜県内3校の中学生が被災地仙台市立折立中学校を訪ねました。「私たちに出来ることは何か」を求めての訪問でした。僅かな時間の交流でしたが、帰校して仲間とともに考え、行動に移しました。真剣な取組みの模様を特集として掲載しました。この被災地中学校との交流は、前年度の事業として岐阜県PTA連合会が行いました。今年度も、宮城県内の学校・PTAと交渉しましたが、希望した訪問時期での交流が難しいことから、「延期」することとなりました。再度、来年度の夏休み期間に訪問ができるよう計画しています。

■日本PTA全国協議会が募集した。「たのしい子育て全国キャンペーン」親子で話そう!家族のきずな・我が家のルール三行詩募集で、優秀作品が選ばれました。岐阜県から応募した作品のうち、小学校の部で佳作に選ばれたのは北井巧磨さん（小1）の「おかあさんのぎゅうはやわらかい。おとうさんのぎゅううはあたたかい。だからぼくはおとうとにぎゅうしてあげるんだ。」。中学校の部日本PTA全国協議会会長賞に選ばれた鈴木健眞さん（中3）の作品は「学級だより　どんなに小さく写ってても　見つけてくれる母の愛」。一般の部厚生労働大臣賞の津田恵美さんの作品は「ママ、お母さん、母ちゃん、くそばばあ、おふくろ　出世魚みたい。成長した君なのに。呼び名すべて母（わたし）の勲章」。どれも素敵な作品ですね。頬がゆるんで、心が温かくなります。

■今年度最後の号になりました。1年間のご愛読ありがとうございました。来年度は「早く届き、ゆっくり読める、個人購読」を勧めていきたいと思います。引き続き宜しくお願い致します。今年度の5冊のバックナンバーは、県PTAのホームページで閲覧できるように致します。ご活用ください。4月から消費税が8％に上がりますが、本誌の購読料金は200円のまま据え置くことになりました。一層のご支援をお願い致します。

なぞなぞの答え

①標語
②野球

■7月号のお知らせ（予定）

特集＝家庭内における情報通信機器アンケート調査より／表紙＝朝日小／学校の宝物＝長良東小・川辺西小・小泉小・稲羽中／我が家の宝物＝宮小／シリーズ「療育」＝大垣特別支援学校／家庭教育学級応援団／お弁当の日＝倉知小／保健室ノート＝長森南中／私の先生＝那加第一小／半生記輪之内中／おやじニュース＝笠原中・泉中・土岐小・付知南小／1冊の本＝加納小・加子母中／我が家のルール＝岩野田小・神渕中／子の思い＝岩野田北小・武儀西小・中山中／親の願い＝稲津小・登龍中／教育の窓＝羽島北小・向陽中／ふるさとの伝承＝美濃小学校／キラリ!キッズ!＝東白川小／我らが部活＝小金田中／私たちのPTA＝北方南小／ほか漫画、クイズ、イラストなど満載!

わが子のあゆみ

平成26年3月1日 発行
春風号　第65巻5号
通巻432号

頒価　200円（年間 1,000円）
＊お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

編集／岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
発行／岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
電話／058-262-3257　FAX／058-262-3259
ホームページ／http://www.g-pta.com
Eメール／info@g-pta.com
印刷／サンメッセ株式会社

荘川地域には、ひねり踊りという古くからの伝承文化が残っています。ひねり踊りとは、その昔、地区ごとの社殿造営改築、屋根の葺上げ、鳥居の建造、大豊作の祝い等に、氏子揃って行列を組み、大名行列風に踊り歩いたという神事芸能だったそうです。荘川地域のひねり踊りは半世紀ほど途絶えていました。それを荘川からひねりを習い踊っている清見町の上小鳥八幡神社の踊り振りを参考にして舞い方を取り入れ、荘川に伝承されていた囃子に合わせ再現し、約三十年前に復活しました。

約三年ごとに披露されているひねり踊りでは、日の丸の扇子を手にした花笠姿の子どもたちと、武者姿に槍や長刀、弓などを持った若者が、色鮮やかな衣装に身を包み、笛や太鼓のお囃子に合わせ唄いながら華やかに踊っています。

総勢百人ほどになる行列は、警護、道開け、露払い、ひねり獅子、花笠、幟旗、道掃き、挟箱、大奴、小奴、鉄棒、薙刀、大傘、立傘、弓引に分かれ「道行き」「左さ」「本舞」の三曲を唄い方に合せて舞います。この中で子どもの担当する役割として、道開け役は男子二名が赤と青の鬼の衣装、挟箱役は男子四名が小さな挟箱を肩に担ぎ袴姿、小奴役は男子二名が槍を持ち袴姿、鉄棒役は鉄棒を模した木の棒を肩に担ぎ袴姿、幟旗役は五人の子どもが五色の旗を垂らした棒を担ぎ袴姿、花笠は低学年と残りの子どもが男女問わずに女の着物を着用、花を付け飾った傘を担ぎ、それぞれが鉢巻、襷掛けをして、足袋わらじを履き、日の丸の付いた扇子を振る舞形式です。

踊りは「道行き」の囃子で舞いながら前進して行き、拍子木の合図で曲が「左さ」に変わるとその場で舞を行った後、「本舞」の唄い方に合わせて舞を行う、この繰り返しで前進して行きます。

練習は保存会やＯＢの方が講師を務め、大人から子どもまで一緒に行い、以前の経験を教え合いながら進めていきます。

ひねり踊り当日、顔に白塗りの化粧を施した子ども達は、着物の衣装に着替えるという大変な作業を保護者に準備してもらいます。準備は会場から離れた学校の各教室で行われ、本番会場まで大移動します。

約三年に一度の行事なので、担当する役が変わる事もあり、保護者や関係者の方の準備も大変ですが、大人から子ども、高学年から低学年へと、代々受け継がれる、貴重なひねり踊りを披露する為に荘川町民あげての大イベントになっています。

▲行列風景

ひねり踊りの伝承活動

▲挟箱役の男の子どもたち

▲花笠の子どもたち

▲道開け役の赤鬼、青鬼の子ども

▲行列の中央　舞姿

▲男の子も女姿で踊ります

岐阜市立網代小学校　キラリキッズ

網代小学校は、全校児童八十一名の小規模校です。岐阜市の北西部にあり、校区は、山と田畑に囲まれた自然豊かな環境です。学校の教育目標「心あたたかく　やりぬく　網代っ子」の具現に向けて、「まなび」「あいさつ」「うたごえ」「そうじ」「あそび」を具体的な取組の五本柱と位置付けて活動をしています。また、昭和四十一年からＦＢＣ活動を行い、毎年、春・秋花壇コンクールへの参加や校内や地域に花作り活動を広めています。

大切にしている五本柱の活動

「まなび」…生活科や総合的な学習の時間を中心に人との関わり合いを深める活動を行い、思いやりの心を育てたり、思考力・表現力等を高めたりしています。一年生は、地域のお年寄りの方から昔の遊びを、フィリピンの方からフィリピンの遊びを教えていただく交流をしています。二年生は、網代保育所の子と、三・四年生は、岐阜本巣特別支援学校の子どもたちと年間を通して相互の交流をしています。五年生は、ＦＢＣ活動で育てた花の苗を地域の施設に配ったり、全校に花を育てる良さを伝える活動をしたりしています。六年生は、防災教育の一環として、専門家の方や地域の方から命を守るための情報を収集しています。

「あいさつ」…代表委員を中心に児童会活動として、毎朝あいさつ運動をしています。

「うたごえ」…毎朝、今月の歌を学級で歌い、毎月、歌声集会で学年発表をします。授業参観の時には、全校合唱を発表することがあります。

「そうじ」…一人一人が自分の分担場所に責任をもち、時間より早く始めたり、隅々まできれいにしようとモクモク掃除に取り組んだりしています。

「あそび」…異年齢集団での活動を中心に外で元気に遊びます。『春のなかよし遠足』『秋のなかよし遊び集会』『毎週木曜日のなかよし遊び』を通して、思いやりの心を高め、丈夫な体づくりをしています。

ＦＢＣ活動

種をまいて苗から育てます。そして、約四千株をポットに移植し、苗になるまで肥料や水をやり育てます。育てた苗を花壇に定植して、願いを苗の種類や配色で表現します。また、育てた苗を地域に配ったり、なかよしグループでプランターに植えたりします。半年以上花と向き合い地道な活動をし、命を育むことを実感し、いろいろな人と進んで関わり、感謝の心を育てています。

そうじ

一人一人がモクモク掃除をして、分担場所を隅々まできれいにしています。

うたごえ

きれいなうた声を目指しています。全校合唱を授業参観で発表しました。

まなび

1年　地域のお年寄りの方と交流

5年　地域の施設にＦＢＣの苗配り

どの学年も交流活動を行い、人とのふれあいから学びます。

3・4年　岐阜本巣特別支援学校の子たちと交流
6年　　防災学習で多くの方から学ぶ

2年　保育所の子たちと交流

FBC活動

テーマ「雪どけ」をビオラやパンジー、ノースポール、デージー、忘れな草で様々な困難なことを春の雪どけのように解決して幸せになって欲しいという願いを込めました。

あそび

【なかよし遠足】なかよしグループで校区内の遠足を行います。地域に関するゲームを解いたり、一緒にお弁当を食べたりします。

【なかよしお店集会】なかよしグループ毎に遊びを工夫し、全部のグループの遊びを、全員が遊びます。下学年へ楽しく優しく関わることで思いやりを育んでいます。

あいさつ

【あいさつ運動】毎日、代表委員があいさつ運動をしています。キャンペーン期間は、登校をしたら一列に並んでハイタッチをしてあいさつをします。

我らが部活

熱く燃え上がる『巣中魂』

瑞穂市立巣南中学校

昭和22年に、村立学校として設立した学校です。町制や市制による学校名の変更を経て瑞穂市立巣南中学校となりました。66年の伝統ある学校です。学校の校訓である、『強く・正しく・美しく』を意識し、学習に行事に部活動に熱心に取り組んでいます。

陸上競技部

僕たち、陸上競技部が大切にしていることは、部員間のコミュニケーションです。お互いの調子や運動フォームを伝え合い、少しでも自分たちの成長につなげられるよう頑張っています。練習中は、ケジメをつけ、集中して各種目に取り組むことで部員の能力を向上できるようにしています。今はまだ実績のある選手は少ないけれど、少しずつ努力を積んで、地区大会優勝を目指していきます。

野球部

県大会優勝を目標として、日々練習に取り組んでいます。新チーム最初の大会では、ブロック大会を勝ち抜き県大会に出場しましたが、2回戦で2対1という結果で負けてしまいました。

この悔しさをバネに、夏の中体連に向けて毎日必死に練習に取り組んでいます。また日常生活を大切にし、毎日の授業や学級・学年における自分の役割に真剣に取り組むことができる野球部を目指しています。

男子バレーボール部

男子バレーボール部の目標は「県ベスト8」です。僕達のチームは初心者が多く、まだまだ技術面での課題が沢山あります。そのため、練習では基本となるアンダーハンドパスのレシーブやオーバーハンドパスを繰り返し練習し、拾ってつなげるバレーを目指しています。

声を掛け合いながら技術を磨くとともに、いつも支えてくださる多くの方への感謝の気持ちを忘れず、今後も頑張ります。

サッカー部

サッカー部は、2年生10名1年生9名の計19名で活動しています。日頃から大切にしていることは，部員で決めた約束を守り一生懸命部活動に取り組むことです。

今年の秋季大会は、県大会に出場することができました。今までより強い相手と戦うことができ、とてもよい経験になりました。春季大会や中体連でも、県大会に行けるように努力していきます。

男子バスケットボール部

男子バスケットボール部は、地区大会優勝を目指して日々練習しています。特に力を入れているのは、パスとシュートです。コートの中の5人が心をひとつにパスを回し、その大切なボールで確実にシュートを決める。ゲームに出ていないメンバーも声を出しチームを盛り上げる。積み重ねてきた練習の成果を、春季大会、中体連で発揮できるように頑張ります。

女子バレーボール部

女子バレーボール部の目標は、「県大会出場」です。そのために、「声を出すこと」「みんなで必死にボールをつなぐこと」を日々の練習の中で意識して頑張っています。声を出すことによって、仲間意識が深まります。また、チームの雰囲気も盛り上がり、良いプレーが生まれてきます。仲間や家族に支えられていることに感謝して、日々の練習から仲間と共に一生懸命取り組んでいます。

男子卓球部

男子卓球部は、今、1年生11人、2年生14人の計25人で活動しています。普段は、基礎練習と試合形式の練習、さらにはランキング戦を行い、一人一人が公式戦に備えて努力しています。今までの大会では、団体戦、個人戦それぞれで目標を決め、好成績を残すこともできました。今後も、技術を伸ばし、お互いに刺激し合って、練習に取り組みたいと思います。

女子バスケットボール部

女子バスケットボール部は、2年生4名、1年生5名，計9名で活動しています。9人という少人数ですが、自分たちで練習計画を立てて、地道に練習に取り組んでいます。今の私たちが身に付けなければならない力は、8分間全力で走り切れる体力です。そのために、基礎練習を始めランニングや筋トレに取り組んでいます。誰にも負けない体力をつけて、地区大会に進めるチームになれるよう頑張りたいです。

男子ソフトテニス部

男子ソフトテニス部は、団体戦での県大会出場を目標に日々の部活動に取り組んでいます。遊んでテニスをやるのではなく、「テニスを楽しむ!」をモットーに、より上達するために部活動に頑張っています。また、試合の前後や練習時の挨拶、そしてコーチや保護者の方への挨拶をきちんとするように、特に取り組んでいます。そして毎日、声を出し、一球一球に全力で取り組み、テニス部員全員が一丸となって目標を実現するため、ひとつひとつの練習を大切に頑張っています。

女子卓球部

女子卓球部は、今、1年生16人、2年生10人の計26人で活動しています。先輩の方々から受け継いだ「時間を守ること」「挨拶を大切にすること」を意識して日々の練習に励んでいます。アップやフォア、バック、つっつきから始めて、最後には部活内でランキング戦をし、順位を決めます。向上心を高めながら、お互いに切磋琢磨して一人一人が腕を磨いています。

剣道部

剣道部は、暑くても寒くても、仲間5人で支えあい頑張っています。練習の時には、今日の目標を決め、何のための練習なのかをはっきりさせ、技を磨いています。また、一人一人にあった練習を考え、内容を変えたり、回数を変えたりしてできるようにしています。また、教えてくださる先生方に感謝することや礼節を大切にすることなどを忘れずに、これからも、日々精進していきます。

女子ソフトテニス部

女子ソフトテニス部は計16人で活動しています。部活の雰囲気を高めて、1試合でも多く勝つことをめざし、次の2点を大切にしています。1つ目は、声を出すことです。「ファイト」などの声で、お互いに励まし合ったり、集中力を高めたりしています。2つ目は、きびきび動くことです。それによって、練習時間を増やしたり、試合後半でも集中力や体力を維持したりできるようにしています。

美術部

美術部が大切にしていることは、『楽しく、真面目に』です。仲間とアドバイスし合い、絵の技術を高め合います。朝練などはないですが、その代わりに放課後の部活の時間には目一杯取り組み、作品をつくっています。

毎年、様々な展覧会に出展するなど、活動も盛んです。油絵などは初心者がほとんどですが、教え合い、完成度を高めます。これからも仲間と高め合い、楽しく活動したいです

音楽部

音楽部は2年生9名、1年生3名の計12名で活動しています。日頃から大切にしていることは、全員が気持ちの良い挨拶をすること、心をひとつにして聴いている人の心に残る合唱をすることです。

今年度も、基礎となる発声練習から音楽表現まで一つ一つの練習を丁寧に積み重ね、NHK全国学校音楽コンクール本選出場に向けて頑張っています。

ダンス同好会

ダンス同好会は、昨年度発足しました。中学生になってダンスを始めた部員も多くいましたが、基礎から練習することで少しずつ踊れるようになっています。私たちが大切にしているのは、挨拶です。先輩後輩関係なく、自分から挨拶することを心がけています。地域のイベントでダンスを披露したり、コンテストに挑戦したりしています。

書道同好会

書道同好会は、1年生5人、2年生2人、3年生5人の合計12人で、今年度活動をスタートしました。主な活動として、中体連などの大会に出場する部活の応援団幕を書いたり、半紙に書いた作品をみんなで交流して高め合ったりしています。学年関係なくアドバイスできることを大切に、教え合い協力しながら、人の心を動かすことができるような作品が創れるように頑張っています。

柔道部

柔道部は、全員が1年生の11人で、今年度より復活しました。毎日の練習で心がけていることは、気合いの入った声や仲間への励ましの声を、全力で出すことです。中学校から柔道を始めた生徒がほとんどですが、「精力善用・自他共栄」の柔道精神に則り、心・技・体の向上を目指しています。部活で培った力が日常生活にも繋げることができるように努力しています。

私たちのPTA

飛騨市立宮川小学校ＰＴＡ

平成25年度ＰＴＡスローガン

思いやりがあり、自分の力でやりとげようとする子に育てよう

学校紹介

宮川町は、飛騨市の西北部に位置し、町の中央を流れる宮川の両側に二十五の集落が点在している人口七百九十人の町です。本校は児童数二十八名の小規模校で、平成十二年の統合・平成十六年の町村合併・平成二十二年の宮川中学校閉校を経て、地域唯一の学校として地域から大きな期待を寄せられています。

今年度のＰＴＡ重点活動

今年度のＰＴＡ活動の重点は、「早寝・早起き・朝ご飯で健康な心と体を鍛えよう」「基本的な生活習慣を身につけさせよう」「規範意識（道徳心）を育てよう」「一家庭一ボランティアをすすめよう」の四つです。この四つの重点を基に、各委員会が活動したり、各家庭で子育てにあたったりしています。

【7／28 Ｅボート大会】
お父さんの好リードが光りました。

【7／8 読み聞かせ】
月に一度、母親委員が選んだ本を読み聞かせます。

【8／23 親子クッキング】
親子で朝食とおやつ作りをしました。

【10／20 親子ふれ合い活動】
屋内運動場にてグラウンドゴルフを行いました。

【12／19 花餅づくり】
3名のおばあちゃんが手伝ってくださいました。

【学級委員会】SNSの危険について親子で学習

各委員会の活動

○学級委員会

「親子で取り組む「我が家の三ケ条」と題して、第一条「全校で守る約束（気持ちのよい挨拶をしよう）」、第二条「家族みんなで守る約束」、第三条「自分で守る約束」について毎月家庭で評価して、学級懇談会では、その取り組みの様子を交流しています。

夏には毎年、関西電力打保ダム湖で行われる「飛騨みやがわＥボート大会」に高学年が親子で参加します。この大会には県内外のおよそ二十チームが参加し、熱戦を繰り広げます。

「親子ふれ合い行事」では、親子でグラウンドゴルフを楽しみました。また、喫緊の課題でもある「ＳＮＳの危険」についてドコモより講師を派遣してもらい、親子で研修しました。

○母親委員会

母親委員会ではベルマーク活動のほか、今年は食育に力を入れて取り組んでいます。夏休みに行った「親子料理教室」には全家庭が参加しました。栄養教諭から食生活の大切さを家族で考えるお話を聞いた後、「親子で作る朝食とおやつ作り」に挑戦しました。

また、「朝の読書」の時間には毎月、母親委員が交代で読み聞かせをしています。子どもたちは、今日は誰のお母さんが来てくれるのか楽しみにしています。お母さんの「本好きな子になりますように」との熱い思いが伝わってきます。

○広報委員会

年二回の発行ですが、ＰＴＡの活動を幅広く知っていただこうと宮川町の全家庭に配布して広報活動を行っています。こうした広報活動で、地域からは温かい協力が寄せられています。六月に行った三泊四日の宿泊研修には地元の「万波そばの会」の協力で「そば打ち」を体験できました。また「自然観察会」では地元の方が講師として協力してくださり、宿泊研修所の裏山に出かけ、「ふるさと探検」をしました。

「花餅づくり」に必要な株が欲しいとお願いすると、次の日には学校に届けていただけます。

十二月末の「感謝の会」には、この一年お世話になった方々をお招きして、児童が作った感謝状やプレゼントを準備して楽しいひとときをすごしました。

【6／18 宿泊研修】
自然観察会で熊・ニホンカモシカの皮にふれました。

【宿泊研修】万波そばの会の指導でそば打ち体験

【12／13 感謝の会】
お世話になった方々に肩もみをしました。